

清でなぜ産業革命が起きなかったのか

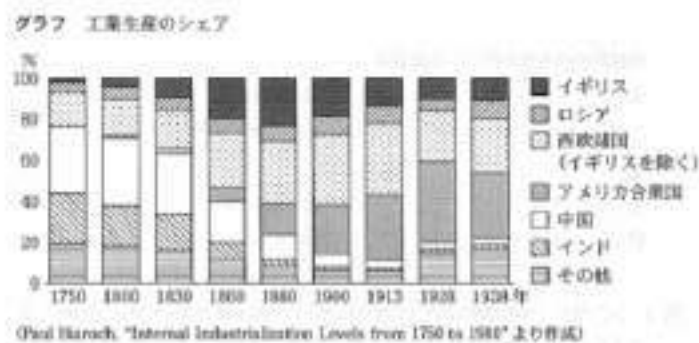
1. 問題意識

清の近代化*が失敗した理由について迫る

2. 問い

下のグラフに示した通り、ヨーロッパと比べて経済的な面で優位に立っていた清が産業革命*期以降追い抜かされた。

その時なぜ清は日本のように近代化してヨーロッパに追いつくことができなかったのか。



*4

3. 考察

イギリスの興した産業革命に他国は追随する形で政策を行っていったからアジアでの産業革命は西欧近代化と言える。よって清においては洋務運動*3がこれに当てはまると考えられる。したがって洋務運動の失敗について迫っていこうと思う。

1862年に曾国藩*5が武器、弾薬の試作のために安慶に建設した軍械所が始まりである。

ついで李鴻章は上海、蘇州で武器の製造を試みたが、太平天国の乱後の1865年に南京に金陵製造局、上海に江南製造局を設けて、武器、弾薬はじめ船舶を大規模に作るようになった。また

*1 歴史的な意味での近代化(近代社会の成立過程)は、中世封建社会から近代資本主義社会への移行過程を意味する。封建制から資本主義へという意味での近代化は、おもに経済の分野における近代化であって、封建的土地所有と共同体的諸関係を打破し、都市の商工業を制圧して、民富(産業資本)の形成と全機構的展開を実現した過程である。この過程は広義には産業化、狭義には資本主義化の過程であるが、それは経済の分野の近代化に限定されず、それに付随して広く政治、社会、文化の近代化をもたらした。

*2 18世紀の後半、イギリスにおいて、綿工業における技術革新を皮切りに、機械と蒸気機関を用いる大規模な工場制度が普及した。この結果、飛躍的に生産性が高まって、経済の中心が農業から工業へと大きく変革した。

*3 清の動揺が進む中、アロー戦争(第2次アヘン戦争)に敗北した1861年から、日清戦争の起こる1894年までの34年間にわたって行われた、清朝の近代化の試みを進めた運動。その前半は同治帝による同治の中興の時期に当たっている。1875年からの光緒帝の時代は西太后が実権を握り保守派が台頭、洋務運動も次第に停滞し、朝鮮を巡る日本との対立から日清戦争へと向かう中で、その限界が明らかになった。洋務運動の理念は、中国の伝統的な文化や制度を本体(中体)とし、西洋の機械文明の技術だけを取り入れよう(西用)という「中体西用」であったので、根本的な改革には至らず、政権を維持するためだけのうわべの改革に終わった。

更にその後他の開港場諸地にも軍事工場や造船所がつつぎとできた。1860年代から近代工業としてまず軍事工業がおこったのであるが、やがて強兵のためには富国が必要と考えられ、70年代になると新しい通信・運輸事業が始まり、鉱山の採掘や毛織物の生産などにも近代化が及んだ。軍隊の近代化のため新式の訓練を行ない、様式の武器や装備を整えるには、その指導にあたる将校や、機械を操作する技術者が必要となる。そのため1860年代から外国人武官を招聘し、陸海軍の士官学校の武備学童や水師学堂を天津・広州などに設立して、将校や技術者の養成に努めた。

洋務運動で設立された兵器関連工場*⁶

安慶内軍機所	福州船政局	蘭州機器局	湖南機器局
上海洋炮局	天津機器局	広州機器局	四川機器局
蘇州洋炮局	西安機器局	広州火薬局	
江南製造総局	福建機器局	山東機器局	
金陵機器局			
1861～1865	1866～1870	1871～1875	1876～1880

なかでも江南製造局、天津機器局、福州船政局、金陵機器局の4つは四大工場とも呼ばれ清の近代兵器製造の一躍を担った。

私はこの洋務運動が失敗した原因は主に二つあると考えている。

一つ目は経営システム上の問題だ。

清では1861年から1900年まで19ヵ所の鉱山を開業したが、その鉱山は長くても12年最短1年で閉鎖していた。こうなってしまった理由は官営方式*⁴や官督商弁方式*⁵を取り入れていたからである。これらの制度はヨーロッパや日本などのような民間主導の企業経営とは大きく異なり

国が直接経営に携わる制度であったため、清の企業の成長を大きく阻害させる要因となった。

洋務運動は、1872年、官営の輪船招商局(航運業)が、翌73年に民営のいわゆる「官督商弁」の経

*4 International Industrialization Levels from 1750~1980 Paul Bairoch

<http://joseluisoreiro.com.br/site/link/799ef34b72637c0aa997dd5fdab926acc4d86cc5.pdf>

より独立行政法人大学入試センターが作成し2021年世界史B第2日程で出題したものより引用

*5 科挙で優秀な成績を収めて高級官僚となった漢人。満州人政権である清朝政府には全面的にそれを支える立場で仕えた。官僚であると同時に知識人、学者としても知られていたが、1851年1月、太平天国の乱が起こると、即位したばかりの清朝第九代の咸豊帝に乞われてその鎮圧に向かうことになった。苦しい戦況を切り抜け、14年にわたる戦闘の結果、1864年7月によりやく乱の鎮圧に成功した。その間、太平天国軍との戦いが続く中、曾国藩は左宗棠や李鴻章などの漢人官僚を配下にして勢力を拡大し、清朝宮廷の西太后のもとで洋務運動を推進した。それは西洋の優れた軍事技術を導入し、清朝の統治を安定させようとした。岡本隆司「曾国藩」より引用

*6 洋務運動与中国近代企業より作成

*7 洋務派官僚が直接経営に携わる方式 中国の歴史8より引用

*8 別名半官半民方式、官僚の監督のもと、経済に通じた民間人に経営させる方式
中国の歴史8より引用

営方針に切り替わったところから、軍事目的でない、国民経済の発達に直接かかわる企業活動へと展開し始めた。官弁ではなく、官督商弁に変わったのは、国庫金では企業回転に不足しがちなので、民間資金を導入して、

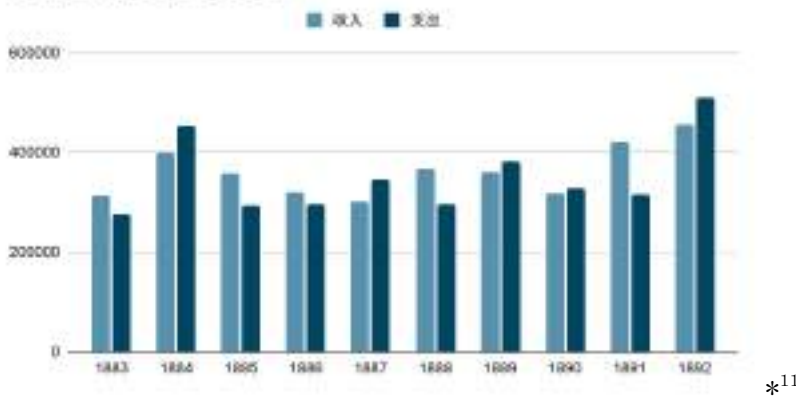
資金の不足を補おうというのであり、また応じる商人達も、こうした投資を期待するものが増えたことも一因となっている。

官督商弁方式のメリット、デメリット*

メリット	デメリット
・税制の優遇	・国への依存度高まる
・営業独占権の付与	・官僚の言いなりになる
・工場、鉱山の独占付与	・競争が起きにくい

二つ目は官僚の杜撰な経営体制である。「大府*⁹たる者は、黄金を見れば喜び、県令たる者は嚴刑悲法によって邑の錢米を請求し、金に易えて大府を賄って喜ばせた。大いに飢えた人が互いに食い合った後に、食料を徴収することを口実にしては、名を借りて実を取り、婦女が山谷に逃亡して、数日夜敢えて郷里に帰ろうとしないほど追い立てた。胥吏がまた至り、門番がまた至り、必ずその家財奪いつくしてはじめて終わった。」*¹⁰というような文章が残っているように、この時期の官僚は自国の民を搾取して自身の懐を温めるような物が多かった。そのような官僚が多い時期に先ほど述べた官営方式、官督商弁方式のような官僚主導の経営体制を取ってしまった。こうした官督商弁企業は、結局のところ経営権は官僚に帰しており、無用な官僚的役職が多く、能力を無視してかれらの親類縁者コネの人事が横行し、はなはだしい支出のむだがあった。しかも、配当は、官利と称する固定した(損益無視)もので、経営と資本蓄積を圧迫した。市場は特権的に保証されたもので、拡大再生産の余地は少なく、商人の資本と経営通年に脅威を与える要素がひじょうに多いために、近代工業の実現に半ば使命感に燃えた意識的な商人でも、損失を背負ったまま絶望して企業から離れてゆくものが出てきた。経営の不明朗さ、官僚的な横領に対して、株主たちが告発抗議した例も多いが、結局どうにもならなかった場合が多かったようである。そのため赤字が続き倒産する企業が増えた。

天津機器局の収支と支出



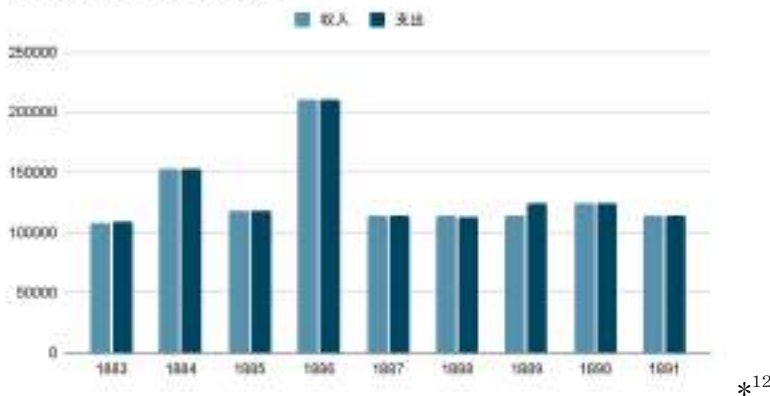
* 9 中国で、宮廷や政府の器物を収納した蔵。転じて、それを管理し、また財政を司った官。

<https://kotobank.jp/word/%E5%A4%A7%E5%BA%9C-450727>

* 10 張亨甫文集より引用

* 11、12 中国近代工業資料より作成(横軸は年、縦軸は金額で単位は両)

金陵機器局の収入と支出



*12

この二つのグラフからわかるように、清での四大製造局と呼ばれた工場ですら経常収支はほとんど赤字であった。

さらに中華思想が背景となり、官僚たちは西洋は銃火器の面では中国にまさるが政治・社会の面では遠く及ばない夷狄の長所を取って中国の短所を補えば十分自強できると慢心していた。この中途半端さが失敗の要因の一つであると考察できる

4. 結論と今後の展望

清では日本やヨーロッパのような民間主導の経営体制ではなく、官僚が主導して行う上からの改革を行った。しかし、当時の官僚は自身の国の民から搾取して私腹を肥やし、職権を乱用して自分の身内を洋務運動時にできた企業の要職に就任させていた。官僚には経営を行うだけの知識も経験もなく自身の利益しか考えていなかったため洋務運動は失敗に終わったと考える。

今回は洋務運動における経営システムのみ注力したが要因としてはこれだけではない。外交面や国民に対する教育など要因は多岐にわたるため今回挙げたものだけが理由ではないことは理解してもらいたい。今後は外交面から考察していきたい。

5. 参考文献

中国近現代史 小島晋治・丸山松幸

中国の歴史8佐伯有一

中国の歴史7清帝国 増井経夫

中国はどうして日本に遅れを取ってしまったのか 林思雲

International Industrialization Levels from 1750~1980 Paul Bairoch

<http://joseluisoreiro.com.br/site/link/799ef34b72637c0aa997dd5fdab926acc4d86cc5.pdf>

「曾国藩」 岡本隆司

洋務運動与中国近代企業 張国輝

張亨甫文集 建寧張際亮亨甫

<https://kotobank.jp/word/%E5%A4%A7%E5%BA%9C-450727>

中国近代工業資料 孫毓棠

図説中国近現代史 池田誠・安井三吉・島昭一・西村成雄

図説中国の歴史8清帝国の盛衰 神田信夫

世界史探求実教出版

最新世界史図説タペストリー二十二訂版

<https://www.ritsumei.ac.jp/ec/why/why04.html/>

天守の色の変化の要因

1.はじめに

日本の天守には主に白を基調としたものと黒を基調としたものがあり、主に時代を下るに従って黒い天守から白い天守に移り変わっていく。これは各城主の好みや君主への忠誠心を反映した結果であるという意見がよく見られる。例えば、豊臣の時代の天守は黒いものが多く、徳川の時代の天守は白いものが多いというものだ。しかし、城主たちは本当に敵の侵攻を防いだり武器や食料を備蓄している軍事施設であった天守の色を好みであるからという理由で選んでいたのだろうか。そこで私は天守の色が変化した原因は他にあると考察した。

2.考察①世の中の変化

1つ目は世の中の変化である。戦乱の時代であった頃は黒い天守を造ることで闇に溶け込み戦を優位に進めていた。逆に世の中が比較的平和であった頃は優美かつ一国支配の権威を感じさせる白を天守の色として採用していた。また、白は膨張色であり天守を大きく見せる効果もある。白い天守の代表とも言える姫路城は1600年に城主になった池田輝政による改修の際に外壁が白くなったと言われている。実際に第2次世界大戦中には姫路城の白壁が目立ちすぎると懸念して黒い網がかけられた。

また、城は時代が下るにつれてほとんど没交渉だった山城から平山城、更に城下町に近接した平城へと変化していった。このことにより城自体が人民にとって身近なものになり、天守の色がより権威を感じられる白に変化したとも考えられる。以上より戦乱の時代は黒の天守が好まれて平和な時代は城の天守が好まれていたと言えるのではないか。

城の地形による分類



3. 考察②機能面

まず黒い天守と白い天守の機能と材質の違いについて説明する。黒い天守は下見板張という方法で作られており、これは土壁の上に横長の板を下の部分が重なるように隙間なく張り合わせていく方法である。この手法で作られている天守は防水性が高いという特徴がある。一方で、白い天守は塗籠という方法で作られており、これは土壁に仕上げとして漆喰をぬりかさねていくという手法である。漆喰は不可燃性であるため、この手法で作られている天守は防火性に優れているという特徴がある。また、白い天守は黒い天守に比べてメンテナンスに時間とコストがかかるというのも特徴の一つである。

城主たちにとって大型の木造建築である天守が焼失、延焼することは金銭的にも精神的にも痛手であり避けたいことであった。上で述べたように塗籠でできた天守は比較的防火性が高い。それを理由として白い天守を採用した城主が徐々に多くなっていったのではないか。また、良く見られるものとして上部が塗籠、下部が下見板張りで作られている天守があるが、あれはそれぞれの手法の利点をかけあわせたものである。塗籠は水に弱く雨風に対する耐久性が優れているとは言えない。しかし下見板張りで作られた天守は土壁に直接水がつかないため雨風に対しては強い。2つの手法それぞれの特性を活かして雨風にさらされやすい天守の下部分を下見板張、上の大部分を塗籠で作った城が現在広く見られている。



下見板張で造られた松本城の壁



総漆喰塗籠式の姫路城

4. 考察③漆喰の材料の変化

3つ目は漆喰の材料の変化だ。日本で見られる漆喰は水酸化カルシウムを主成分とし、骨材、すさ、のりを水で練り上げたものが主流である。元は漆喰を作る上で高価な米糊を使用していた。しかし、安土・桃山時代には左官技術の発達の中で比較的安価な海藻糊を使った漆喰が普及し台頭してきていた。これがきっかけで漆喰自体の値段も低下し、かつてと比べて白い天守が造りやすくなったのではないか。このことも白い天守が増えた理由の一つといえる。

5. 結論

①～③の要素を複合的に見ると、このようなことが考えられる。天守は漆喰で造ったほうが合理的であった。しかし、戦乱の時代は経済的にも時間的にも余裕がなくコストがかかりメンテナンスが手間で目立ってしまう危険性がある漆喰でできた白い天守を造るのは難しかった。これが理由で黒い天守がよく見られた。だが、時代が下るに従って世の中が比較的平和になり漆喰の値段も下がってきた。これをきっかけに白い天守が台頭していったのではないか。

以上より、天守の色の変化には時代の変化やそれぞれの天守の機能、材料の変化などが影響しており、城主の趣味趣向によるものではないと言える。

6. 参考文献

1. 山田幸一. “城郭と茶室の壁を通じてみた近世初期の左官工事について”.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/aijsaxx/63.2/0/63.2_KJ00004443215/_pdf/-char/ja
2. 山田幸一. “塗籠式城郭建築にともなう左官工事の発展”
https://www.jstage.jst.go.jp/article/aijsaxx/69.2/0/69.2_KJ00004445645/_pdf/-char/ja
3. 沢辺大輔. 鳥越宣宏. “漆喰の文化と科学”
https://www.jstage.jst.go.jp/article/kakyoshi/64/3/64_KJ00010257718/_pdf/-char/ja
4. NHK. “黒く変えられた姫路城「暗黒の4年間だった…」”
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20230829/k10014156821000.html>
5. 山田幸一. “日本壁”. 同文書院
6. オフィス五稜郭. “武士の世を現在に伝える現存12天守”. 双葉社
7. 内藤昌. “城の日本史”. NHKブックス
8. ALSOK. “城の防犯（防御）とは”. <https://www.alsok.co.jp/person/recommend/046/>
9. 原田左官工業所. “漆喰について”.
<https://www.haradasakan.co.jp/magazine/magazine201304/>
10. 一般社団法人日本左官業組合連合会. <https://www.nissaren.or.jp/1245>
11. 姫路市公式サイト. <https://www.city.himeji.lg.jp/castle/0000007671.html>
12. 国宝松本城（松本城公式サイト）.
<https://www.matsumoto-castle.jp/about/tower/daitenshu>

周遊型謎解きイベントは地域振興につながる効果的な取り組みか

1. はじめに

近年、地域の観光スポットや神社仏閣、城郭などの史跡等を舞台とし、参加者が謎を解きながら歴史や文化に触れ楽しむ「周遊型謎解きイベント」が全国で行われている。近年では大阪メトロや京阪電車沿線、大阪城などで開催された謎解きイベントが話題となった。（*資料1参照）

国内では特に地方において過疎化の問題が深刻化しているが、この近年ブームである”周遊型謎解きイベント”というコンテンツがもつ街歩きとエンターテインメントの特性を活かすことで、地域振興やまちおこしの促進に寄与できるのではないかと考えたのが研究の発端である。（ここでの地域振興とは、主に地域経済の活性化や世間での注目度を向上させることを意味する。）

本研究では、周遊型謎解きイベントが地域振興につながる取り組みとして効果的か否かを以下の3つの観点から調査・分析を行った。

- ①近年の「周遊型謎解きイベント」の市場規模の推移
- ②年齢、国籍など関係なく誰もが参加できるイベントであるかどうか
- ③繰り返しまたは定期的に行うことができる持続可能なイベントであるか

また、資料研究だけでなく、より具体的で深い考察をするために、2023年と2024年に周遊型謎解きイベントを主催した自治体（大阪府守口市）にアンケート調査を実施した。

2. 論証

[1]「周遊型謎解きイベント」の市場規模の推移

周遊型謎解きイベントは2015年頃からメディアへの露出を通して徐々に注目を集めた。2015年には市場規模400億円を突破し、参加人数は述べ500万人にまでのぼった。現在では市場規模500億円以上と言われており、参加経験者も年々増加を続けている。（*資料2参照）

また市場の拡大に伴い、謎解きイベントの企画・運営を専門事業とする企業も増えており、現在では観光・史跡スポットのほか商業施設やテーマパーク・宿泊施設など、さまざまな場所で謎解きイベントが開催されるケースが増えている。一過性のブームではなく、今後も拡大を見込める市場と言え、地域振興の促進につながる可能性は十分にあると考察する。

[2]年齢、国籍など関係なく誰もが参加できるイベントであるか

一般的な謎解きイベント以外の調査事例として、訪日外国人が謎解きを楽しめる「謎解きプラスforインバウンド」や、幼児はともかく小学生以上を対象とした謎解きイベントも行われていることが分かった。（*資料3参照）。しかし、外国人を対象とした多言語対応の謎解きイベントは、今回の調査ではたった4点のみしか事例が確認できず、外国人観光客の増加に反して普及していない。インバウンド向けの謎解きイベントは消極的で、あくまで日本語対応のものが主流である。

多言語対応の謎解きイベントが普及していない理由として、制作難度の問題や、そもそも外国人の”謎解き”に対する興味や関心が不透明であること（＝ビジネスになりにくいこと）が考えられる。

周遊型謎解きイベントは、幅広い年代が参加できるものであるが、インバウンド向けのイベントは希少であるため、現状では訪日外国人による話題の広がりや経済効果は期待しづらいと考察する。

[3]繰り返しまたは定期的開催できる持続可能なイベントであるか

周遊型謎解きイベントの醍醐味は、街歩きで訪れる観光・史跡スポットにある。もちろん商店街や商業施設等の活用でも実施可能だが、地域の範囲や上記スポットには限りがあるため、開催1回目は話題となっても、何度も実施する中でイベント内容に重複が生じ、次第にマンネリ化してしまう可能性が考えられる。

2023年と2024年に地元で謎解きイベントを主催した大阪府守口市（魅力創造発信課）へアンケート調査を行い、開催者側からの意見を回答いただくことができた。市は、謎解きイベントの利点と課題点の両方に言及されている。

市では2024年開催イベントに約6000人が参加し「新しい発見を得られて楽しかった」との参加者感想が多く、市により興味を持ってもらうきっかけ作りになったとのこと。また、市内の飲食店を謎解きのヒントポイントとするなどの工夫をすることで、実際にその飲食店を訪れる人が増え、限定的ながら地域の消費を喚起することにつながったと評価されている。一方で、周遊範囲が市内のみだと謎解きポイント（目的地巡り）が限られてしまい、今後複数回実施しても似通った内容になってしまうのではないかという懸念点も述べられていた。

3. 結論

周遊型謎解きイベントは近年より急速に市場拡大を続けており、イベント参加のハードルも低いため地域を問わず開催できるものと考えられる。しかし、特に観光資源や人気スポットの数や、エリアの規模により、定期的実施するには持続可能性の点で課題が残る。特に地方開催の場合、一時的なブームにはなり得るが、継続して実施するにはさらなる工夫が必要である。

また、訪日外国人が参加することができる”多言語対応の周遊型謎解きイベント”については、整備が進めば、地域振興や世界に向けての魅力発信のみならず、外国人観光客が都市部に一極集中してしまっている現状を改善することができ、各地で問題となっているオーバーツーリズムの解消（観光客の分散）にも繋がる可能性を秘めていると考察する。しかし、現在においては多言語に対応した謎解きイベントの実施可能性および外国人の謎解きに対する興味・関心が不透明であることから、効果的であるか否かについては判断できない。

いずれも、周遊型謎解きイベントが直ちに地域振興に活用でき、効果的なものであると現状では結論付けることが困難であった。しかし、周遊型謎解きイベントをエンターテインメントに留まらない、ゲームの枠組みを超えた一つの政策として捉え、例えば地域全体でイベント事業の開発を進めることで、地域振興・まちおこしに役立つ未来のコンテンツとして飛躍できる高い可能性を感じている。

4. 課題改善に向けての提案

周遊型謎解きイベントを”地域振興”のレベルに引き上げるために以下の4点を提案する。

- ・多言語対応の謎解き企画の整備
- ・周辺地域との共催で企画内容のマンネリ化防止
- ・リモートで参加可能なネット版謎解き
- ・謎解きとアニメやドラマの”聖地”をコラボレーションした企画

周遊型謎解きイベントは東京や大阪などの都市部で流行しているため、地方で謎解きイベントを実施しても多くの人はアクセスの良い都市部の謎解きイベントに参加することが予想される。したがって、都市部で行われている謎解きイベントとは違った工夫を施したイベントを実施する必要があると考える。例えば、リモートでの謎解きイベントは遠方から参加可能であるため、アクセスの良さなどは関係なく多数の参加者が見込まれる。また、人気急上昇中の”アニメ”と”謎解き”という2つの日本文化を組み合わせたイベントも効果的だと考えられる。日本の”謎解き”という文化を生かした観光政策に期待したいと思う。

5. 今後の展望

日本の地域活性化の成功事例（謎解きイベントとは関係ない事例）を詳しく調査し、その成功要因について考察して、地方に人を呼び込む工夫をより深く研究していきたいと思う。

6. 参考文献

- ・ 枝廣淳子「好循環のまちづくり！」岩波新書 2021年
- ・ 佐々木一成「観光振興と魅力あるまちづくり」学芸出版社 2008年
- ・ 山口一美「はじめての観光魅力学」創成社 2011年
- ・ 茶谷幸治「まち歩きをしかける」学芸出版社 2012年
- ・ 都内でも観光地でもなぜ「謎解き」が流行っているのか？

<https://forbesjapan.com/articles/detail/26069>

- ・ 謎解きプラスforインバウンド公式サイト

<https://nazotoki-plus.com/forinbound/>

- ・ 謎解き企画「SDGs大作戦～世界を守る謎解きミッション～」

https://workshop.picoton.com/original/riddle_solving_toshiba_sdgs.html

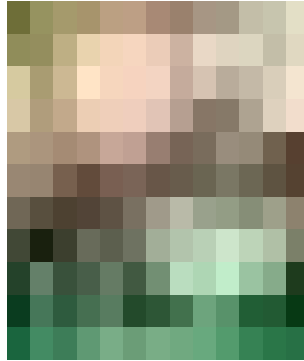
- ・ 謎解き宝探しin守口市公式サイト

<https://sengokutakara.com/moriguchi/>

7. 謝辞

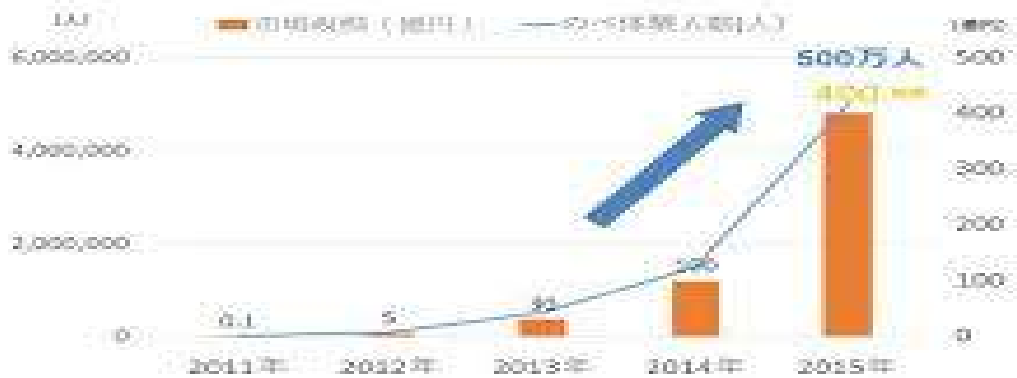
本研究を進めるにあたって、アンケート調査にご協力いただいた大阪府守口市魅力創造発信課の方々に感謝を申し上げます。

<資料1 近年実施された謎解きイベントの事例>



<資料2 周遊型謎解きイベントの市場規模の推移>

謎解きイベント市場の推移



出典：「謎解きイベントの市場規模と今後の展望」

<資料3 訪日観光客や子供を対象として行われた謎解きイベント>

(左：訪日外国人向けの謎解きイベント 右：小学生向けの謎解きイベント)



現代の戦争における自殺率の変容要因についての考察

1. はじめに

研究を始めるにあたって、テーマを決めるとなったときにたまたま「死生学とQOL」という本を手にとった。QOLモデルを作ることには頓挫してしまっていたが、その本の中で紹介されていたマズローの「人間性の心理学」という本を読んで、欲求と自殺率の関連性についての疑問が生じ、これを今回の研究テーマとすることにした。

2. 考察1 (問題意識について)

デュルケームは19世紀に出版した「自殺論」の中で”戦争は社会的結束力の上昇を及ぼし、自殺率は減少する”と述べている。しかし、今日の戦争においてその関連性は低下しているように見受けられる。21世紀初頭のイラク戦争においては自殺率の減少傾向は見受けられなかった。今回はいわゆる先進国について、デュルケームの根源的理論が現代において成立し得なくなった要因となった事象をマズローの欲求階層論を用いつつ明らかにしていきたいと考える。

そもそもマズローの欲求階層論とは、下位の欲求が満たされることでより上位の欲求が出現するといった論であり、下位から順に並べると、生理的欲求、安全の欲求、社会的欲求、承認欲求、自己実現の欲求となる。

ここで、デュルケームの理論とマズローの欲求階層論とが同次元において矛盾するかについて検証していきたいと思う。精神病理が自殺の原因となり得ることはマズローもデュルケームも一致しているが、マズローは精神病理の原因は「剥奪ではなく脅威」としており、「基本的欲求におけるフラストレーションが精神病理の原因となることはすべての臨床家が一致している」としている。「脅威」と「フラストレーション」は戦争によって及ぼされると考えられるため、この二つの理論は二律背反であるように思われる。しかし、フラストレーションと社会的欲求の充足を同次元のものとして考えると、その二つが拮抗した後には欲求の充足がフラストレーションを上回るとも考えられるので、この二つの理論に矛盾は生じないと今回は考える。

3. 考察2

一つ目の要因として、承認欲求の容易な達成が可能になったことが挙げられる。多くの先進国では言論の自由やソーシャルプラットフォーム(X, Facebook等)の発達や増加に伴って自己発信ができる場も増え、欲求階層論において社会的欲求よりも上位とされる承認欲求が得られる状況が身近になったことで、承認欲求が充足された状況が続くことにより、その位置を、より下位とされる社会的欲求が置換できなくなると考えられる。つまり、より上位とされる承認欲求が戦争によって阻害されることで、とりわけ先進国において、社会的結束力の上昇によって満たされる社会的欲求に魅力を感じ得なくなる。そして、人々は社会的欲求に依存する必要性がなくなり社会的結束力の上昇が自殺率の低下に寄与しづらくなるのではないだろうか。事実、「人間性の心理学」において承認欲求の危機は精神病理へと陥る動機づけであり、人はすべての欲求が満たされている場合により高次の欲求を優先するとあるので、承認欲求のより容易な達成が自殺率の減少傾向が鈍化した原因の一端を担っていると考えられるだろう。

4. 考察3

もう一つの要因として、平時での社会的紐帯の減少により、戦時中の社会的結束力自体が減少していることが挙げられる。社会的紐帯が減少しているということは私が即席で考えたようなものではなく、いくつかの論文で指摘されている。一つ引用すると、『現代的社会における社会的排除のメカニズム』の中では、「社会的不平等の蔓延は決して日本に限ったことではない。むしろ

ろ、グローバリゼーションという世界的な流動化の高まりによって、社会的紐帯の危機は、先進国に共通した緊急課題となっている」とあることから、社会的紐帯の減少は見て取れるだろう。これは言い換えると戦争による社会的結束力の上昇が弱まるということであるので、デュルケームの根源的理論を弱めるような新たな変化が「自殺論」執筆から現代の間で生じたということになる。ここで、私はアラン・トゥレーヌが述べた「垂直社会」から「水平社会」への移動がこの社会的紐帯の減少の要因だと考える。尚、その意味についての考察は後述する。その移動への要因をここからは一つ一つ考察する。

まずは、現代における所得格差に依拠した従来の貧困概念から生活リスクに焦点を当てた社会排除概念へのパラダイムシフトの誘起である。今日の不平等問題についてとりわけEUの社会政策においては社会的排除のメカニズムが採用されており、G.ルームはこれを5つの分析軸で評価した。「財政的な不利から多面的な不利へ」「静態的な分析から動態的な分析へ」「個人や世帯の資源に関する焦点から地域コミュニティの資源も伴う関心へ」「階層化や不利に関する分配的側面から関係的側面へ」「連続した不平等からカタストロフ的断絶へ」といったことからわかるように、現代における貧困とは、単に資産や物品といった物質的なものではなく、障害者や薬物中毒者といった社会的逸脱者における、社会参加といった、いわゆるメタ的な価値を含んだ「新しい貧困」(Paugam 1996)を指す様になっていることがわかる。人々が志向する価値内容が物質的なものから分化すればするほど、デュルケームの述べたような、戦争による容易で一律的な社会的紐帯の上昇にはより困難が生じることとなるだろう。

続いてはメタ欲求の強まりによる機械的連帯から有機的連帯への変化である。そもそも、機械的連帯とは諸個人の類似程度に応じてその強さが決定されるような没個性的な社会のことを指し、有機的連帯とは分業に基づく異質な諸個人の機能的差異によって集合意識が弱体化し、個人意識が優越するような社会のことを指すが、デュルケームは集合的意識は機械的連帯でのみ発現し、有機的連帯においては発現しないと述べている。また、有機的連帯を可能にするには様々な活動を可能にしたいという個人の関心が必要であると述べられているが、この関心はマズローの欲求階層論において社会的欲求に対するメタ欲求であると理解できる。ここで考察2を参照すると、現在は社会的欲求が優越性を持っていないことがわかるため、現在の社会は有機的連帯であると推測できる。よって、集合意識が弱まり社会的紐帯も弱まったと考えられる。

続いては、物質的な価値から非物質的で、よりメタ的であるような価値への志向の遷移である。アラン・トゥレーヌは志向される価値内容の変化について社会運動を基に言及している。例えば権力奪取を目指す階級闘争運動から、住民運動や反原発運動、女性運動への変化や、従来の抗議型の運動から政策実現型のものへの転換が挙げられ、これに対応して運動を形成する組織の形もピラミッド型からネットワーク型へと変化していると述べられている。これは身分差や立場がより重視された社会から、個人の価値観や欲求によって個々のコミュニティが規定されるような社会になっていると解釈できるが、これがアランの述べた「垂直社会」から「水平社会」への移動と一致すると捉えると、アランの述べたことが現代において社会的紐帯が弱まったことを説明していると解釈できる。これらから分かる通り、現代社会においてより価値として志向されているものは従来の賃金といった物質的価値ではなく、社会の形や生活スタイルといった非物質的でメタ的である価値であることが見て取れる。また、これは考察2のサポートセンテンスにもなる。メタ的欲求の志向内容が、金銭といった物質的価値と違い、その個人によって内容が異なることを考えると、これらは社会的紐帯が弱まる一つの要因になっていると考えられるだろう。

続いては意識的、或いは無意識的な文化アイデンティティの解体である。杉山光信が述べるには、以前は理性や歴史法則といったメタ社会的なものへの準拠をしないとして自己意識を強調していたとある。これは近代の西洋哲学で理性がより強調されていたことを踏まえると考えやすい。例えばデカルトは「我思う、ゆえに我あり」といった自己の理性を最上のものと考え、それ

によってしか世界を規定できないとしたが、これはある意味で盲目的思考を生み出してしまい、リーダーといった存在によって国民を容易に統合できてしまうような、意思を心的活動の中心に据える主意主義的国家を形成していたと考えられる。一方で、現代の社会的運動では特に個人の権利、差異の権利などといったメタ的な価値に依拠したアルテルモンディアリスム的な運動を作り出していると考えられる。また、このときにはアクターたちの賭け金が主体の形であり、それが合理的かつ文化アイデンティティによって規定されているときにのみ社会運動を認めると杉山によって述べられている。これらを総括すると、現代の社会運動において、我々は元来意識的、あるいは無意識的に身につけられたアイデンティティを解体し、新たな文化アイデンティティを個人が獲得することで、個々のコミュニティにおける社会運動が生まれ、それらの乖離が徐々に生じることによって社会的紐帯が弱まったと考えられる。

これらの要素が複合的に組み合わさることにより、一つの国家の中でも様々な自己意識が生じ、社会的紐帯が十九世紀と比べてより弱まったと思われる。このためデュルケームの理論と現代の状況においてズレが生じ、自殺率の減少傾向が鈍化したと考えられる。

6. 結論

承認欲求のより容易な達成や、社会的紐帯の減少といった問題が複合的に組み合わさることで戦時中における自殺率の上昇傾向が鈍化したと考えられる。

7. 参考文献

- A・H・マズロー (1987) 『改訂新版・人間性の心理学』 (小口忠彦訳) 産業能率大学出版部
デュルケーム (1985) 『自殺論』 (宮島喬訳) 中央公論新社
杉山 光信. 『「停滞」と「分裂」のなかの社会運動論? アラン・トゥレーヌの仕事の理解をめぐって』 .2008.明治大学文学部心理社会学科
樋口 明彦. 『現代社会における社会的排除のメカニズムー積極的労働財政の内在的ジレンマをめぐってー』 .2004.大阪大学大学院

ファストフードの広がりから考える現代社会の「食べる」

1.はじめに

現代社会において短時間で提供し、比較的安く、手軽に食べられるファストフード店の需要は効率を求めるとともに高まっている。また、ファストフード店の代表といえるマクドナルドはマクドナルド化とも称される社会現象を現代社会にもたらすほどの影響力を持っている。ファストフード店の広がりとは社会の合理化の進行とともに進み、「食べる」こと自体が合理化を求めることによって変化しているのではないかと考え、合理化が進んでいる現代社会において「食べる」とはどういうことかを念頭に考察を進めた。

最初に、現代社会におけるファストフードの存在について調べ、ファストフードが成り立つ3つの原理をもとに現代社会とファストフードの関係を考察した。それらを踏まえて、「食べる」とはどういうことなのかを「食べる」ことの実際の状況や昔と対比した上で現代社会の「食べる」を捉えた。

*マクドナルド化とは、マクドナルドのような合理的な生産と消費がファストフード店のみならず、現代社会の生活に浸透していること

2.ファストフードと現代社会

ファストフードの代表といえるマクドナルドは1940年にアメリカで始まり、「スピード・サービス・システム」やセルフサービスを売りにして、アメリカ内だけでなく国外にもすぐに広がった。現代社会においてファストフードは、ハンバーガーを売るマクドナルド以外にもうどん屋、寿司屋、たこ焼き屋など比較的商品の提供が早く低コストで商品が作れるお店もファストフードと認識され、ファストフード店の店舗数は徐々に増え続けている。ファストフード店の存在が当たり前となり、生活に溶け込んでいったことは社会の合理化の進行とともにあると考える。

ここでいう社会の合理化とは、時間の最小化、物事の統一・均一化、質より量を重視する傾向である。今日の社会の合理化の傾向として、入試試験のマークシートをはじめとするファスト教育、限られた時間で映画や動画を見たいという願望からのファスト映画の流行や倍速機能の利用、限られた時間でさえも気軽に利用できるファストジムの流行などが見られ、生活のあらゆるところで合理化を求めるようになっている傾向がある。

3.ファストフードの3つの原理

『マクドナルド化した社会 [21世紀新版] -果てしなき合理化のゆくえ-』でジョージ・リッツアが提唱している効率、予測・計算可能性、制御の3つからなる「ファストフード店の3つの原理」より、マクドナルド店が社会や人間へ与える影響を考えた。

1つ目の効率において、限定されたメニューの提供や単純な調理過程が挙げられており、前者により私達の選択肢は限られ、後者により味の統一や無駄な時間の省きがもたらされた。これより、ファストフード店の効率の良さは、社会に時間の最小化と物事の単純化を与えていると考える。

次に2つ目の予測可能性・計算可能性において客と従業員のマニュアル化が考えられる。客は、規定されたメニューによって毎回同じ値段で同じ味が得られるという予測を立てる。従業員は機械を用いて、規定された作業通り働けば毎回同じ商品が出来上がるという安心感を持つ。また、技術の進歩により数値化が進んだことも従業員のマニュアル化に関係していると考えられる。

最後に3つ目の制御において、ファストフード店を利用することによって行動の制御がもたらされていると考えられる。ファストフード店を利用した際、列に並んで注文して商品を受け取り、席で食べてゴミを捨てて立ち

去る。この一連の行動は、知らぬ間にファストフード店の規範を内面化し行動しているのだ。言い換えると、ファストフード店による行動が制御されていると言える。

以上の効率、予測・計算可能性、制御の「ファストフードの3つの原理」からファストフードは合理化を求める私達の要求とともに広がっていると考ええる。ますます合理化が進む社会では、ファストフード店はより広がり、合理化の進行とともに経営規模・経営店舗数・進んだ技術の利用が拡大されると考える。

4「食べる」とは

ファストフードを始めとし、社会の合理化の進行は食べることに影響を与えていると考ええる。ファストフード店を利用して食べることは味、値段を求めることはもちろんであるが、それ以上に短時間での提供を求めて利用する人が多い。食べることにしても時間に支配されている社会。そんな現代社会で生きる私達にとって、「食べる」とはどういうことなのか。

『食べるとはどういうことか』より、「食べる」という行為は本来どの瞬間、行為をいうのかが極めて不明確である事がわかった。「食べる」とは、食べている瞬間のことを言うのか。それとも、食材が農家さんの畑で作られて、スーパーに運ばれ売られて、それを買って調理して食べ、体内で消化する、その一連の行為を言うのか。それともその一部分の行為を指して言うのか。また、「食べる」ことは自然と密接に関わりがあるためにどの過程も切り離すことが難しい。

次に、狩猟採集社会の自給自足だった昔の生活における「食べる」ことについて調べた。自然と密接に関係し、山や森の中で獲物を狩り、食べられるように火を用いて調理をすることまですべて自分達で行っていた。言い換えると、どこで何をしてどのように手に入れ調理をするのかすべての過程を当たり前で生活の一部として捉えていたと考える。これは「食べる」という行為の一連の過程が可視化されている。現代と比べて、一つ一つの行動に意味や目的を持って行動していると言える。

次に、現代社会における「食べる」をファストフードから考えると、ファストフード店は原料の輸入先、輸入方法、調理方法など、商品が自分の目の前に届くまでの過程がわからない。つまり、「食の不可視化」が進んでいると考える。現代社会においてこれはファストフード店だけに言えることではないと考える。「食の不可視化」が進んだ要因として第一に、合理化が進むことで作業が分担されたことで、できる限り効率よく商品を生産することを求めるようになったこと。第二に、お金の介入が始まったことで、お金を支払えば直ぐに商品が手に入るようになったことが考えられる。

「食の不可視化」が進んだことで、人間は自然からより離されているのである。また、合理化が「食の不可視化」を進行させていると考えられ、狩猟採集社会における「食べる」とは大きく変化している。お金を支払えば直ぐに商品が手に入り、それがどのようにどうやって作られて自分の手元にあるのかわからない。というよりも、「食の不可視化」が進んでいるためにわかるはずもない。

「食の不可視化」は「食べる」こと自体への意識を低下させ、現代社会において「生きるために食べる」や「痩せるために食べない」や「短時間で安く食べるためにファストフード店を利用する」など常に「食べる」ことに対して意味や目的を求めるようになった。つまり、「食べる」ことに意味を持たせざるを得なくなったと考える。また、狩猟採集社会の「食べる」と現代社会の「食べる」を比べると、「食べる」こと自体が人間から外部化されているといえる。

以上の考察を踏まえて、今日の「食べる」ことに意味を持たせている現れであるサプリメントや健康増進食品の流行から、「食べる」という行為自体が失われ、ただお腹を満たせられれば良いというような「食べる」こと自体が機能化していくと予測する。

5.結論

合理化が進んでいる現代社会においてファストフード店が急速に広がり、食べるまでの過程が昔と比べてより単純になっている。合理化が進むことは、社会に有益である反面、「食べる」ことにおいては「食の不可視化」を進行させた。「食の不可視化」が進んだことにより、食べる意味を失ったことで、「食べること」の意味を求めようになってしまう。

合理化が進めば進むほど私達に有益であることは間違いないが、失っているものがあること、また一度失ったものを戻すことは合理化が進む社会では難しいということを忘れてはいけない。合理化の進行とともに進む「食の不可視化」を認識し、「食べる」ことは人間にとっていかに重要な営みで、自然と密接に繋がり、生活の基盤であるのかを改めて考え直すべきである。

6.参考文献

- ジョージ・リッツァ(1999)『マクドナルド化する社会』(正岡寛司監訳) 早稲田大学出版部
- ジョージ・リッツァ(2008)『マクドナルド化した社会 [21世紀新版] -果てしなき合理化のゆくえ-』(正岡寛司監訳) 早稲田大学出版部
- 藤原辰史(2019)『食べるとはどういうことか』農産漁村文化協会
- 鈴木透(2019)『食の実験場アメリカ ファストフード帝国のゆくえ』中公新書
- ジェームズ・ワトソン(2003)『マクドナルドはグローバルか』新曜社
- エリック・シュローサー(2001)『ファストフードが世界を食いつくす』草思社
- 川崎惣一(2014)『食べることについての哲学的試論 一人間と自然の関わりという観点から一』
- サトウタツヤ(2015)『文化心理学から見た食の表現の視点から食文化とその研究について考える』

日本の美的感覚と文化

1. はじめに

日本の絵画と西洋の絵画を見比べると、多くの相違点が見つかる。その違いはどこからくるのか。江戸時代後期の化政文化における作品と、西欧の新古典主義やロマン主義における作品を中心に比較をして、絵画の表現方法や日本の文化と関連付けながら、日本人の美的感覚について考察する。

2. 考察①

全体的に、日本の絵画には大きく分けて3つの特徴がある。

まず1つ目は、享乐的・世俗的であるということである。歌川広重の東海道五十三次のように何気ない日常の風景のなかにユーモアが込められている作品や、歌川国芳の『みかけハこゝろがとんだいゝ人だ』などのように遊び心のある作品が多い。また、役者や力士を描いた絵も多く、絵画は当時芸術としてというよりも娯楽として人々に親しまれてきたことが読み取れる。対して西欧の絵画では、寓意を含んだ作品や、富や権威を示そうとする人物画が多く、説明的である。

この違いには、日本における現世肯定の意識が関わっている。当時の日本では、西洋のような宗教画が比較的少なかったことなどから、宗教との関わり方が西洋とは違っていたと考えられる。仏教はもちろん、日本古来の神道や、身分社会であった江戸時代に徳川幕府が推奨していた儒教などが混ざり合っていた。彼岸や来世だけではなく、現世での幸福を祈願するものも多かったとされている。また、先祖を迎えるお盆の文化や、空からご先祖様が見守っている、といった言い伝えなどにも見られるように、死者は生きていた頃の集団に属しており、現世にいる私たちと繋がっている。先祖供養の考え方は多くの地域で見られるが、仏教の輪廻転生や、キリスト教の復活などの考え方とは違ったものである。

3. 考察②

2つ目は、不完全なものに美を見出しているということである。日本では葛飾北斎の富嶽三十六景など、風景画が人気であったのに対し、西洋ではあまり風景画は見られなかった。逆に、西洋画では花瓶に入れられた花束のモチーフが見られるのに対し、日本ではほとんど見られず、草花は生きたままの状態で描かれている。

この違いには、日本における自然観や季節感が関わっていると考えられる。時代的にも空間的にも普遍的で理想的な美を追い求める西洋では、自然の作り出す不安定さや秩序のない形は恐れ避けるべきものであり、また人間が支配すべきものであるという考え方があった。風景画や静物画の絵画のモチーフとしてのランクは宗教画や人物画よりも低いものであった。対して日本では、神道の自然崇拜やアニミズムのような、人間、動植物、無生物など全てのものには意思があり神々や精霊が宿っているという考え方や、超自然的な威力を認めて靈的な存在とみなす考え方があった。自然は支配すべきものではなく、感謝し共存させてもらうものであった。さらに、日本は、四季の変化が明瞭で水も豊富である風土や夏の湿気といった気候条件から、植物や雑草が繁栄し、人々は自然をより身近に感じていた。春から夏には草木が生い茂り、冬には枯れていくという絶えず移り変わる四季、移ろう自然の美しさを感じることで、美は儂く移ろい、ゆえに貴重なものだとする「もののあはれ」という考え方が生まれたと考察できる。刹那的な美しさを表現するという点でも、和歌や俳句と共通する点がある。日本の版画では木が使われていることなど、材料からも自然と身近であったことが読み取れる。

4. 考察③

3つ目は、空間的で感覚的であるということである。西洋の絵画が背景まで空間が続いていて余白が全くなく、まるで窓から外を覗き込むかのようなリアルであるのに対し、日本の絵画には余白がある。

これは、西洋における実態の美と日本における状況の美という、美の捉え方の違いによるものである。西洋の美術作品は、一つ一つのモチーフに意味が込められ、作品そのものが美しい。当時の西洋の人々は、説明可能であるというところに美を見出していたと考えられる。対して日本の美術作品は、余白があり見る者に想像の余地を与えている。また、簡素化された物体や鮮やかな色彩は、私たちに言語化不可能な雰囲気を感じさせる。ある物体だけではなくそれを取り囲む雰囲気に包まれるような身体的感覚は、西洋における写実的な絵画とは違うリアリティを鑑賞者に与える。これらは「わびさび」や「いき」などの日本的な美しさを表す言葉、美的範疇と通じている。

5. 結論

以上のことから、日本の絵画の特徴は、世俗的・享乐的であること、不完全なものに美を見出していること、空間的で感覚的であるということである。それらの根底には、日本独特の自然観や季節感、現世肯定の意識、状況の美などの美意識がある。

文化は混ざり合い、日々変容していく。技術が発展し情報の溢れる現代において、その勢いは増している。そんな中で、絵画鑑賞などを通して人々が自らの文化や、他の文化（美意識）について学ぶことは、多くの人々が共存していく上で、また精神の安定を保つために不可欠であると考えられる。

6. 参考文献

- 加藤周一、木下順二、丸山真男、武田清子(1991). 『日本文化のかくれた形』.岩波書店.
津上英輔(2023). 『美学の練習』.春秋社.
ナカムラクニオ(2021). 『洋画家の美術史』.光文社新書.
高階秀爾(2015). 『日本人にとって美しさとは何か』.筑摩書房.
前田雅之(2022). 『古典と日本人「古典的公共圏」の栄光と没落』.光文社新書.
佐々木健一(2010). 『日本的感性:触覚とずらしの構造』.中公社新書.
三橋健(2007). 『神道の常識がわかる小事典』.PHP研究所.
高階秀爾(2001). 『西洋の眼 日本の眼』.青土社.
神原正明(2001). 『快読・日本の美術:美意識のルーツを探る』.勁草書房.
神原正明(2001). 『快読・西洋の美術:視覚とその時代』.勁草書房.
末永幸歩(2020). 『「自分だけの答え」が見つかる13歳からのアート思考』.ダイヤモンド社.
足立直之 『明治期以降の日本の美術と美術教育のグローバル化に関する考察』 山口大学教育学部研究論叢 第72巻 155頁~162頁 2023年1月

三島由紀夫と日本文化

1.はじめに

我々は、今生きているこの日本社会において、これまでの文化を継承することはできるだろうか。能力の話ではない。それを行える時間と、精神性の話だ。太平洋戦争後の経済至上主義のレール上を奔走し、既存の文化まで商品として消費することを平然とするようになった現代日本社会。そして情報化社会に身を任せ、インターネットにおける一時の「バズり」を血眼になりながら求める我々。時間も、通時的な日本文化の精神性も薄れてきた現代の我々は日本文化を継承できるだろうか。私が考えるに、今後それは難しくなると思う。それではどうすればその未来を食い止めることができるか。今回はそれを食い止めるための方向性を三島由紀夫の持つ理想の文化像、そして自決から見出す。

2.問い

三島由紀夫が見た日本文化の理想像、また三島の自決の動機とはどのようなものか。そして現代の日本独自の文化を継承する機会を守るためにはどうすべきか。

3.考察

1.三島の文化論

氏は著書『文化防衛論』(1)において、国民文化には「再歸性」「全體性」「主體性」の3つの特性があると論じている。

- ・「再歸性」…源氏物語が現代の作品にインスパイアを与えるように、文化が「見られる」側から「見る」側になりえること。
- ・「全體性」…時間的連続性、空間的連続性を必要とする、あらゆる文化の丸ごとの容認のこと。言論の自由があって成り立つ。
- ・「主體性」…最上の文化的成果のために身を挺すること。

この中で特に重要なのは「再歸性」「全體性」である。表現の自由があってはじめて多様な文化が創造されるのであり、現代作品においても古典作品に影響を受けたものもきりが無いほどあることを考えると、納得できる。

その中で三島が

「オリジナルはその時点においてコピーにオリジナルの生命を託して滅びてゆき、コピー自体がオリジナルになるのである。」(『文化防衛論』 著:三島 由紀夫)(1)

と言う通り、文化が「永久」*¹に存続するためには、博物館で「標本化」*²するような「保護」ではなく、「再歸性」を保有した状態で守る、すなわち「生きた」文化を守る必要があるとしている。

*¹「永久」…ここでは、三島が石原慎太郎との対談において

「伝統なんかたった一つだけ守ればいいんだ。絶対守らなきゃ危ないものだけ守ればいいんだ。守らなきゃたいへんなものを。」(2)

と言ったように、同じフォルム、フォーマットがずっと残るのではなく、その形は変容する。だけれども、日本を日本たらしめる価値観や思想を発信し続ける、根底にある要素が変わらず残るということ。

*2「標本化」…ここでは三島が『文化防衛論』にて例に上げる「博物館の何百カラットのダイヤ」のように、それ自体が動き出すバイタリティを持たない、「再歸性」がないということである。

2.三島の天皇観

氏が独自の天皇観を抱えていたことは有名であるが、それは「天皇は神であるけれども、それは人間が演じていても構わない」というものである。つまり人々の面前に現れる際は神としての所作を求める「シアトリカルな天皇論」*1である。しかし、二・二六事件、人間宣言の際にその振る舞いを怠り、人間的所作をされたとして三島は強く非難している。著書『英霊の聲』(3)において「などですめろぎはひととなりたまひし(訳:どうして天皇は人となられた)」と憤りをあらわにしていることがわかる。

また、氏が理想とする天皇は「文化概念としての天皇」という役割も果たす。

「文化概念としての天皇」は、文化の中核に絶対者としての天皇を据えることでメインカルチャーの基盤となり、文化それ自体の自立が可能になることを目的としたものである。しかし、GHQによる「日本計画」*2により、人間宣言をされたことでその文化の中心となりえなくなってしまった。

*1シアトリカルな天皇論…佐藤 秀明が著書『三島由紀夫～悲劇への欲動～』(4)において「天皇は天皇として存在するのではなく、人間として、即位礼正殿の儀や大嘗祭によって、皇位継承を宣明し天照大神と直結したことを示し、日本文化の伝統に連なることを意識し意識させなければならぬ。人間と天皇を一旦分離する」ものとしている。また三島は劇作家としても活動していた。

*2「日本計画」…「天皇=国旗=象徴であるとして、天皇制と天皇個人をはっきり分けて考え、昭和天皇は、軍事的指導者の犠牲となっており、日本のひとつとは、軍事指導者にだまされていると宣伝する方針が指摘している。また、「象徴天皇制における民主主義」が宣伝目的として掲げられていることも注目される。」(5)

3.三島と相反する日本社会

人間宣言により絶対者となりえず核を失った日本文化、そして急激な経済発展や先進国化で覇権を握った戦後の経済至上主義によって、「仏作って魂入れず」(6)「無魂無才」の日本社会が形成され、また文化を軽視する文化防衛意志のない国民が生まれてしまった日本社会。そうして文化継承、文化創造の機会が失われ始めた。この現実三島はこう嘆く。

「口に日本文化や日本的伝統を軽蔑しながら、お茶漬の味とは縁の切れないそういう中途半端な日本人はもうたくさんだ」(7)

そして三島のこの危機感は自決へ導く要素の一端を担っていると考えられる。天皇に対する諫言(4. 参考)の動機はそもそもこの国民の文化意識の低下、日本を日本たらしめるものの消失から生まれたものだからだ。

4.『葉隠』と陽明学

三島の自決において外せないその大胆な行動主義は何によるものか。それは『葉隠』と陽明学であると考えられる。

①『葉隠』

『葉隠』とは江戸中期に山本 常朝によって書かれた武士の心得を示すもので、「武士道というのは死ぬことと見つけたり」のフレーズで有名である。三島は『葉隠入門』を著しており、その著書の中でも「わたしの『葉隠』に対する考えは、今もこれから多くを出していない。むしろこれを書いたときに、はじめて『葉隠』か私の中ではっきり固まり、以後は『葉隠』を生き、『葉隠』を実践することに、情熱を注ぎ出した(中略)ますます深く、『葉隠』にとりつかれることになったのである。」(8)と語っているほど『葉隠』に傾倒した。

その『葉隠』の思想の核心にあるのは「諫言」である。諫言とは、主君が道を外れそうな時に家臣がそれを忠告することである。これを武士に必要な要素とし、行動することで自らの勇気を示す論理の一貫性をもつことが必要だとしている。この行動哲学は三島に多大なる影響を与えた。

②陽明学

陽明学は儒学一派であり、「行動の哲学」を持ち「心即理」「知行合一」「致良知」を唱え、行動主義的な性格の思想である。三島の他にも特に大塩平八郎、吉田松陰などがこの陽明学に精通している。そして三島はこの陽明学に傾倒し、『行動学入門』を著す。本書の中で行動というものを三島は「行動は一瞬に火花のように炸裂しながら、長い人生を要約するふしぎな力を持っている」(9)と説く。そして「思想や理論がある目的を持って動き出す時には、最終的には言葉や言論ではなくて、肉体行動に帰着しなければならない」とも述べている。この文章から見ても三島は陽明学に傾倒し、その思想に影響を受けていたことがわかる。

①②より、「葉隠」と陽明学には行動に重きをおいている点で親和性があり、また「諫言」を肉体行動に帰結させた究極のあり方である「諫死」にその行動哲学は導いたのである。

『憂国』のこの記述からもその様子は見て取れる。

「自分が身を滅ぼしてまで諫めようとするその巨大な国は、果たしてこの死に一顧を与えてくれるかどうか分からない。それでいいのである。」(10)

5. 「片恋」と「優しさ」

ここまで三島の理想と現実のギャップ、そして三島の行動哲学について考察してきたが、そこに加え三島を自決に導いた決定的なものとして「優しさ」「片恋」があったのではないかと考える。

①「片恋」

まず「片恋」について。『英霊の聲』において天皇への忠誠を「片恋」と表し、『葉隠入門』においては「(愛が)純一無垢になるときは、それは主君に対する忠と何ら変わらない。」と『葉隠』の恋愛哲学について述べている。また『憂国』においても妻に対する恋愛感情と国に対する至情を同一視している。つまり国=天皇に対する恋愛感情に似た忠誠心があった。

②「優しさ」

続いて「優しさ」について。『不道德教育講座』(11)の解説にて奥野 健男は「氏(三島)は文学にも生活にも遊びにもマジメなのです。」と記し、小説家の横尾 忠則は「数多い三島論では三島さんの「遊び」は無視されています...(中略)...どこかで死を超越したところがなければ、本気で遊べない」と語っている。(12)また『三島由紀夫～悲劇への欲動～』においては「愚直なまでの生真面目さと気迫があり、それが彼の活動にしばし現れる。」とも述べられている。これらのことから三島は損得勘定で動かず、他者に対しての真面目さ=優しさがあり、しかもそのような「優しさ」*を死をも超越するレベルで持っていたのである。

*ここでの「優しさ」は、利他的で勇気を持って行動できること

①②より、天皇への恋愛感情に似た忠誠心と死をも超越する「優しさ」が三島の中にあり、自決への大きな理由となった。

6.現代にあたって

ここまで三島の自決の理由と、文化論について見てきたが、現代に目を向けてみるとどうであろうか。**1.はじめに**で挙げた現代における日本文化が直面している問題として、サブカルチャーによるメインカルチャーの侵食があると考えられる。

現在の日本社会はサブカルチャーが力を持ちすぎている。佐伯啓思は著書『現代民主主義の病理 戦後日本をどう見るか』(13)にて「「きまじめ」と「冗談」の境界や価値づけを排除しようとしたポストモダンの相対主義」が当時(この本が書かれた1997年)広がっているとしており、いわんや現代はその考えが大半を占めている。これはサブカルチャーの過剰な力の保持のせいであり、もともとメインカルチャーを芯として、あくまでサブの領域で力を発揮するはずのサブカルチャーがその芯を侵食することは文化の根本を揺るがしかねない。サブカルチャーが良い悪いの二項対立ではなく、その力を発揮する大きさが適切でないということである。サブカルチャーがメインカルチャーになることもある。例えば『源氏物語』などがそうだ。しかしこれらは然るべき手続き、つまり注釈がつく(=繰り返し読まれる)こと(14)によってめでたくメインカルチャーになるのだ。

ともかくにもサブカルチャーが持ちすぎた力によってメインカルチャーの衰退、行き過ぎた保護(「標本化」)、日本人の通時的普遍性のもつ倫理観(ある種の美的感性)の喪失につながるのだ。

7.文化を守るためには

6で文化継承についての問題を記したが、これらを解決するにはどうすべきか。それは教育によって解決されなければならないと考える。

①文化概念としての天皇の可能性

厳しい。現在の天皇陛下は象徴天皇としての地位を確立されており、現人神としての天皇に戻すことはできないと考えられる。三島自身もこの天皇制については妄言(4)だとし、厳しいことを自認していた。

②文化教育による解決

目標としては三島のような「優しい」人格形成をし、「浅ましい輩」「さもしい輩」を作らないことである。

「優しい」とは先述の通り利他的かつ思い切って行動できること。そのような「優しさ」を持つことで、三島ほどの極端な「優しさ」でなくても文化継承に協力することを厭わない「無用の用」と言われるような、目先の利益だけを求めることのない、そのような人となるだろう。個人主義がマジョリティな現代には文化継承のためにこのような人物が必要である。そしてこの人格形成には、子供の時から武道を実践し、古文の音読をし、古典作品や伝統芸能に心を揺さぶられるといった、日本文化に触れておくことが必要だ。

また、「浅ましい輩」「さもしい輩」は宮台真司の言う損得勘定で愛国者だと主張する人のこと。単なる愛国教育、道徳教育では宮台曰く、「優等生が「ぼくこそが愛国者です」と愛国者ブリッコをする。損得勘定の<自発性>で愛国ブリッコをする「あさましい輩」「さもしい輩」が増える」(15)だけだとしている。こういった人が増えないようにするにはやはり上記のように日本文化に触れておくべきだと考える。それによって内発する自然な愛国心を持つようになるからだ。

「自己を豊かにし、過去とつながる自己を作っていくことだけは間違いない。こうして、古典・古典語をもった国・地域に生まれ育ったという〈宿命〉を甘受し体得することによって、古典はアイデンティティーとなるのである。」(14)

通時的共時的に普遍性のある古典を学ぶことは、言ってみれば大きな共同体の一端を担うことであり、そのことに誇りを持ち、愛し、その共同体存続に協力することに繋がると考える。そして、その共同体に参加する契機を与えてくれる最後の砦が学校や教育機関なのだ。

4.結論

1.三島由紀夫は「永久」に日本文化が存続するため、揺らぐことのない文化の核となる役割を現人神としての天皇に託し、その周辺で日本人による生きた文化活動が行われることを理想とした。

2.彼の「優しい=利他的」性格と、武士道の本質に迫った『葉隠』の「諫言」の思想、陽明学の「知行合一」から派生する「行動学」、さらに天皇への恋愛感情に似た忠誠心が親和し、それらが退廃の一途をたどる日本文化に対する三島の緊迫した防衛反応を肉体行動に帰結させ、「古典化(=注釈がつき、繰り返し思い出される)」、「諫死」としての自決へと導いた。

3.現代においては、文化に対し三島のような「優しさ=利他性」をもち、また生きた文化を自己に内在化し、「無用の用」の必要性を理解し実践する意欲が横溢する人を育てる教育を進めるべきだ。

4.最後に、この探究活動を通して強く感じるのは、特に若い世代にこそ日本文化の精神性を身体で感じ取ってもらいたいということである。三島は若者に対し次のように述べる。

「日本の未来の若者にのぞむことはハンバーガーをパクつきながら、日本のユニークな精神的価値を、おのれの誇りとしてくれることである」(7)

特に将来に対し不安を持つ若者、とりわけ高校生には多様な価値観を取り入れながらも文化の精神性を心の核に据え、奥底では簡単には揺るがない強き信念、高き理想を持ってほしい。その願いを持ちつつ、大学でも教育について引き続き研究活動をしたと思う。

5.参考文献

- (1)三島 由紀夫(2003)『決定版 三島由紀夫全集 第35巻』p366～401 新潮社
- (2)奈須田 敬(1971)『わが友三島由紀夫 レポート・自決の心理と動機』p24～38 原書房
- (3)三島 由紀夫(2005)『英霊の聲 オリジナル版』河出文庫
- (4)佐藤 秀明(2020)『三島由紀夫～悲劇への欲動～』p189 岩波新書
- (5)佐瀬 隆夫(2016)「第二次世界大戦におけるアメリカの象徴天皇利用政策(起源・展開・影響)-ラインバーガー博士とグルー元駐日大使を中心に」一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程
- (6)三島 由紀夫(1996)『若きサムライのために』p176「負けるが勝ち」文春文庫
- (7)三島 由紀夫(1996)『若きサムライのために』p118「お茶漬けナショナリズム」文春文庫
- (8)三島 由紀夫(1983)『葉隠入門』p14 新潮文庫
- (9)三島 由紀夫(1970)『行動学入門』p13 文芸文春
- (10)三島 由紀夫(2020)『花ざかりの森・憂国』p278 新潮文庫
- (11)三島 由紀夫(2023)『不道德教育講座』p338～339 角川文庫
- (12)『横尾忠則が明かす、三島由紀夫がしかけてきた数々の「イタズラ」』週刊新潮 2023年8月3日号掲載 <https://www.dailyshincho.jp/article/2023/08051055/?all=1>
- (13)佐伯 啓思(1997)『現代民主主義の病理 戦後日本をどう見るか』p141 NHKブックス
- (14)前田 雅之(2022)『古典と日本人 「古典的共栄圏」の栄光と没落』p103 光文社新書
- (15)「愛国心は教えられるか、三島由紀夫から考える「道徳教育」の非常識」 newspicks.com 2015年4月3日<https://newspicks.com/news/904645/body/>

「テスト勉強してない」と発言するわけ

1. はじめに

学校生活の中で、テスト前になると「勉強してない」という声を聞くことは多い。自分でも、テスト勉強をしたにも関わらずそう発言してしまうことがある。そのような人は多いのではないだろうか。一体、勉強をしたのに「勉強していない」と言ってしまう背景にあるものは何なのか。

この研究を始める際に、一番はじめの仮説として「万が一テストの点数が低かった場合の自己防衛を行うため」という理由が背景にあるのではないかと考えていたが、本研究ではその「自己防衛」が何故必要になるのか、何故効果を発揮するのかというもう少し奥の段階の要因と、また他の要因について深めることを目的とすることにした。

学生がテスト前に「勉強してない」と発言する背景では、原因を求める心理・それを察知する、日本語の構造由来の主客混じった感覚・日本の謙譲の美德や現代教育の制度・「粹」の美意識などが複雑に関係し合っている。

2. 考察

【1.原因を求める心理】

まず、原因を求める心理は「原因帰属」に現れる。原因帰属とは、日常の事象に対して自分自身や他者の行動、及びその成功・失敗の原因を推測することであり、これは大きく「内的帰属」と「外的帰属」の二種類に分けられる。「内的帰属」とは、行動の成功・失敗の原因を個人の性格や能力、努力等に求めることで、反対に「外的帰属」とは、行動の成功・失敗の原因を、その行動がなされた環境や状況等に求めることである。一般に、他者に対しては内的帰属が行われやすく、特にテストのように合否が決まる場面ではその傾向が顕著である(外山,2019)。

これから行われるテストについて二人で会話している場面を考えてみる。会話中、互いに情報を集める中で、「原因帰属を行われる側」と「原因帰属を行う側」に分かれる（これは会話中で双方がどちらの側にもなり得る）。

原因帰属を行われる側の人は、自分も相手に対して内的帰属を行ってきた経験を元に、自身が「内的帰属」の対象になるであろうことを無意識に察知する。例えば、テストの結果が良ければ「この人は努力したから点数が良いのだ」と思われるだろうと予想するということである。

また、他者に対して内的帰属が行われやすい中でも、他者の「成功」の多くに対しては内的帰属、反対に他者の「失敗」の多くに対しては外的帰属が行われやすいことも明らかになっている(Feather&Simon,1971)。例えば返ってきたテストの点数が良ければ「あの人は勉強したから点数が良いんだな」、テストの結果が悪ければ「あの人の点数が悪いのは今回のテストが難しかったからだ」といったように原因帰属を行うということだ。この時原因帰属の対象になる人は、自分の経験を踏まえてこのことも無意識に察知する。

その上で、テストの点数が高い場合に「この人は勉強をしていなかったが点数が良い」と、実際よりも能力を高く見せるために「勉強していない」と発言する（これは点数が低い場合も含めて、後述の【5.「粹」の感覚】と繋がる）。

ではなぜ、自分が内的帰属の対象になるであろうことを無意識に察知できるのか。

また、なぜわざわざ「勉強してない」と自分を下げた表現を用いるのか。

【2.日本語の構造】

自身が内的帰属の対象になるであろうことを容易に察知することを可能にするのが、主体と客体をはっきりと分けられない日本語の構造にある。

例えば日本語では、「私はこれは変だと思う。あなたは どう思う？」と言うよりも「なんか変だよな。」と、自称詞も対称詞もない表現がよく用いられる。そのため日本人はこのように、他者の視点を内在化し、言語表現の視点を人称の内側におくような日本語の表現を用いることに馴染んでいる(国広,2001)。また、言語感覚は普段の生活における感覚とも密接に関係していることから、日本人は自分と相手が混じり合った感覚をもって他人と接していると言える。

よって「テスト勉強してない」と言ってしまう人(つまり原因帰属をなされる側の人)は、自身も「内的帰属」を相手に行ってきた経験を踏まえて、「自分が今までしてきたから相手も私を内的帰属の対象にするだろう」と、自分が内的帰属を行われる側になることを無意識に察知できる。ここで「『自分がしてきたから』相手も同じだろうと察知する」と言えるのは、【1.原因を求める心理】にあるように、内的帰属は合否が決まる場面で行われやすく、一般に多くの人が内的帰属を行うことが予測されるからである。

【3.謙譲の美德】

自分の努力や成功を明言するのではなく、わざわざ自分を下げた表現を用いる要因の一つ目に、日本の謙譲の美德がある。

日本には、謙譲語や「つまらないものですが」といった謙譲的な表現から分かるように、古くからの謙遜の習慣・謙譲の美德が存在している。実際、日本人は人前で自己卑下的な評価をする、つまり自分を下げることが多い(古城,1980)ことと、自己卑下的に振る舞う人は他者からの好印象を獲得しやすく、更に能力を高く評価されやすい(村本・山口,1994)ことが明らかになっている。故に、自身の努力や能力の高さ・成功などを人前で公言することが、円滑な人間関係をつくり上げる上での妨げとなってしまうことを防ぐため、敢えて謙譲的で多くの人に受け入れられやすい表現を用いている。

【4.教育の構造】

「テスト勉強してない」と自分を下げる表現を用いる理由の二つ目として、日本の教育の構造が挙げられる。「教育における偏差値の利用」の例から分かるように、現代の教育には集団内で相対的優劣を競わせる、という特徴がある。これによって、「誰かよりも高い学位を得る」ことが学生にとって学習の最大の目的となる。そして目的が設定されると学生は最も少ない努力で自分の集団内での相対的学力を上げ、その目的を達成しようとする(内田,2023)。

その際、集団内での自分の位置を高めるためには「努力で自分を上げる」よりも「周りを下げる、または上げない」ようにする、つまり「勉強して自分の学力を上げる」よりも「自分以外の集団全体の学力が高まることを阻む」方が費用対効果が高い。そして「最小の努力」で目的を達成することができる。このことから、「勉強してない」と発言することにより、自分が所属する集団内の他の生徒に「勉強しなくていいのだ」と感じさせることで、集団の学力を「下げる、または上げない」効果を期待していると言える。

【5.「粋」の感覚】

「勉強してない」と自分を下げた表現を用いる理由の三つ目に、日本古来の「粋」の感覚がある。ここで粋を「魅力や価値のあるものを一見魅力のないものの内に隠す、或いは隠しながらも少しずつ見せることを美しいとする美意識のこと」(尼ヶ崎,2017)であると定義する。例えば、「霧の切れ目から見える紅葉」の景色が詠まれた和歌、地味な布の裏に鮮やかな色の布が施された着物、浮気されて泣き喚くのではなく、じっと耐え時折涙ぐんで見せる女(忍ぶ女)、などが「粋」を表現している。

テストに関して、もしも「しっかりと勉強した」と発言した場合は、たとえテストの点数が高かったとしても「勉強しているから当たり前」という認識でしか受け取られず、「粋」の感覚には繋がらない。テストの点数が低かった場合は尚更である。しかし「テスト勉強してない」と発言していたにも関わらずテストの点数が高い場合、相手の心情は「勉強をしていないのに点数が

高いなんてすごい」という称賛の方向に動く（反対に点数が低い場合は「勉強していないから当たり前、仕方がない」と認識される）。これはつまり「勉強していない」という一見魅力・価値のない情報の裏に「だけどテストの点数が高い」という魅力・価値のある情報が存在することが、相手に「粋」を感じさせているということである。

よって「テスト勉強してない」と自分を下げた発言をする要因には、テストの結果が判明した後、自分に自分をよりよく見せることができる、すなわち「粋」の美意識を感じさせることができるだろう発言を選択している、ということが挙げられる。

3. 結論

勉強したにもかかわらずテスト前に「勉強してない」と発言する際の流れには

- ①会話の中で、自身の行動・結果の原因を求められる側になる
- ②テストの結果が判明した後、自身が「内的帰属」の対象になるであろうこと、つまり「この人は勉強したから結果が良いのだ」「勉強していないから点数が悪いのか」といった予測を行われるだろうことを無意識に想定する
- ③その上で自分を下げる発言をして、自身の印象と能力を実際よりも良くみせようとするという、大きく分けて三つの段階がある。

②で自分が内的帰属の対象になるであろうことを容易に想定できることには、他者の視点を内在化した日本語の構造が関係する。この日本語の構造に由来する、主客溶け合った日本人の感性を活かして、「自分がしてきたから相手も自分と同じことをするだろう」と無意識に考えることが可能になる。つまり、自分と相手の経験を分けないということだ。

また③において、努力を明言せずになんげ「勉強してない」と自分を下げる発言をするには三つの要因が関係する。

一つ目は古くからの謙譲の美德である。日本では他者との関わりの中で謙遜する習慣が根付いており、更には、自己卑下的に振る舞う人は他者からの好印象を獲得しやすく能力を高く評価されやすい。よって、敢えて自己卑下的評価を行うことで良好な人間関係を築きあげようとしていると言える。

自分を下げる二つ目の要因は教育の構造にある。現在の教育には集団内で相対的優劣を競わせるという特徴があり、これによって生徒たちは他の生徒よりも高い学位を得ることを学習の目的に据えることになる。そして数値的な目的ができた以上は最小の努力でその目的を達成しようとする。この時、集団内での自分の学力を上げるよりも、周りの学力を下げるか上げないことの方がより少ない努力で済む。「勉強してない」という発言を耳にした他の生徒たちが「じゃあ勉強しなくていいや」と思い込み、彼らの学力が停滞することを期待する。

三つ目の要因は「魅力あるものを一見魅力のないものの内に隠す、もしくは少しずつ見せる」という「粋」の美意識である。「勉強してない」と発言しておきつつもテストの点数が高ければ、「テスト勉強してない」という魅力や価値のない情報の内に「点数が高い」という良い情報が見える、という「粋」に通じる構造が出来上がることになる。

以上のように、「テスト勉強してない」という発言の背景では様々な要因が複雑に絡み合っている。

4. 参考文献

- ・外山みどり.日常的事象に対する日本人の原因帰属.2019
- ・榎本博明.「対人不安」ってなんだろう.-友達付き合いに疲れる心理-.ちくまプリマー新書, 2018,p108-109
- ・築島謙三.文化の構造とことば.日本語講座第三巻.芳賀綏.大修館書店,1990.

- ・ 築島謙三.「日本人論」の中の日本人:民族の核心を知る.大日本図書,2000,197p
- ・ 林四郎、南不二男.行動の中の敬語.明治書院,1973.
- ・ 古城和敬.成功・失敗の原因帰属に及ぼすpublic esteemの効果.実験社会心理学研究,1980,20巻1号,p23-34
- ・ Feather,N.T.,&Simon,J.G.Attribution of responsibility and valence of outcome in relation to initial confidence and success and failure of self and other.*Journal of Personality and Social Psychology*,18,1971,p173-188
- ・ 村本由紀子、山口勸.自己提示における自己卑下、集団高揚規範の存在について.日本社会心理学学会第35回大会発表論文集,1994,p222-225
- ・ 古田寿夫、古城和敬、加来秀俊.児童の自己提示の発達に関する研究.教育心理学研究,1982,30巻2号,p120-127
- ・ 鈴木直人、山岸俊男.日本人の自己卑下と自己高揚に関する実験研究.社会心理学研究,2004,20巻1号,p17-25
- ・ 村山綾.「心のクセ」に気づくには-社会心理学から考える.ちくまプリマー新書,2023,p19-28
- ・ 尼ヶ崎彬.いきと風流.大修館書店,2017,279p.
- ・ 内田樹.サル化する世界.文春文庫,2023,p200-207
- ・ 国広哲弥.場面・視点・言語表現（シンポジウム:プロフェッションと語用論-語用論はいかに「場」の行動を分析するか）.語用論研究=Studies in pragmatics,2001,p59-70

乳幼児期に行われる遊びの効果

1. はじめに

乳幼児期から人はみな「遊び」を行う。そこで、なぜ乳幼児期から遊びを行うのか疑問に感じ、その行われる遊びにはどのような効果があるのかについて考えた。ここでの「遊び」とは、「仕事や勉強をせず、遊戯などをして楽しく時を過ごす」ことを指す。（大辞林 第四版,2019）

考察するにあたって、乳幼児期に行われる遊びには乳幼児たちの身体や精神に効果があると考え、だから乳幼児期から行われるのではないかと考えた。したがって、まず遊びはどのように発生するのかを考察し、その乳幼児のうちに発生した遊びの効果について考察した。

2. 考察①：遊びの発生

まず、まだ遊びを知らない赤ん坊は、外の世界に対して興味、関心を持ち、その面白いと思う世界を持続させるために感覚運動的手段〔1〕を使う。感覚運動的手段の使用によって、自分の周りに起きた出来事を認識する枠組みとなるスキーマの同化〔2〕と調節〔3〕につながり、身体的満足を赤ん坊に与える。また、自己の行為であるスキーマの同化・調節を通して自分の認識する環境に変化を与える。このようなスキーマの同化・調節を繰り返し行うことで新しい手段を自分で見つけられるようになり、わからないことに対しても能動的に探し出せるように様々な手段を「試みと仕損じ」を通して分化していく。分化していくことは赤ん坊たちにとって「実験」のようなものとなる。そのような「実験」は、しだいに「遊び」となる。したがって、乳幼児期のあいだは単に遊びを始めようと思って始めるものではなく、無意識のうちに気づけば遊びに変わっていると考えられる。

〔1〕 感覚運動的手段…触ること、見ること、吸うこと、叩くことなど五感に通ずる行為。

〔2〕 同化…既存の枠組みに出来事を当てはめることで物事を理解すること。

〔3〕 調節…同化を行っているうちに、自分の持つスキーマには当てはまらない事象に出くわしたときに自分のスキーマを変えて理解を深めること。

では、このように無意識のうちに発生した「遊び」にどのような効果があるのか。3～6で考察していく。

3. 考察②：身体を使うことによる効果

〔I〕 対人関係の形成

身体性は、他者がいてこそその自分を前提としている。したがって、対人関係の形成は自他の身体の交わりから始まる。他の遊んでいる友達と声を掛け合ったり、微笑を交わしたりすることで、子どもたちの豊かな情動表現（喜び・怒り・悲しみ・恐れなどの感情と、顔色が変わるなどの身体の変化）が開かれる。そうすることで身近な他者と自分が親密になり、自己と他者の関係を理解する土台となる。また、それと同時に社会性（『集団をつくり他人とかかわって生活しようとする、人間の本能的性質・傾向。社交性』（大辞林 第四版,2019））が急速に広がる。

〔II〕 快感情、自己の信頼の獲得

見ている大人が肝を冷やすような遊びにも効果がある。たとえば、急斜面の坂をスケートで急下降したり、高いところから飛び降りたり、ブランコの縄をぐるぐるねじってから乗り、急回転するのを楽しんだりする遊びである。これらのとき、実際に身体的スリルを味わい、危険にさらされて

いる中で自分の全体を捉える身体的感覚と一体化した快感情を楽しんでいる。つまり、恐れなどの感情や、危険な行為をしたら、怪我をしてしまうかもしれないといった思考が介在していない「ゾーン」に入っている自分を楽しんでいるということである。そして危険を乗り越えたことに対する喜びや自己の力への信頼を具体的に肝を冷やす遊びを通して知ることができる。

4.考察③：遊びと発達課題・発達段階

〔I〕遊びとハヴィガーストの発達課題

「ハヴィガーストの発達課題」とは、人の成長段階に応じて生じる果たさなければならない課題を設定し、その課題を達成することで幸福感を感じやすくなるための指標である。このハヴィガーストの発達課題のうち、「友達と仲良くする」、「日常生活に必要な概念の発達」を達成する遊びがある。それは、「ごっこ遊び」である。例えば、ある保育園で行われた病院ごっこでは、初めは医者役と患者役の二つの役割でおこなわれていたものが、日に日に周りの人を巻き込んで薬を渡す人やレントゲンをする人などの役割が増えていった。さらに、周りの椅子や積み木で区切って独自の世界を作り上げた。子どもたちは、ごっこ遊びの中で周りの友達と協力して遊びを作りあげることで仲良くすることの大切さを学び、ものを用いてごっこ遊びをすることで意味空間が立ち上がり、その空間の中で子どもたちだけで作られるストーリーにより「病院」とはどのようなものなのか理解することができたといえる。また、友達に対し遊びに「入れて!」と言うと「いいよ」と返される。このように仲間遊びに入りたいことを伝え、また承認してもらうことにより社会的手続きを身につける。こうすることでもまた、「友達と仲良くすること」の達成、そして「社会的態度（社会の諸機関、諸集団に対して）」の達成にもつながるといえる。

〔II〕遊びとエリクソンの発達・成熟段階

「エリクソンの発達・成熟段階」とは人にはそれぞれの段階に応じた発達課題があり、それを果たしながら、精神的に成長していくものであるとして人間の発達を包括的に捉える理論となっている。このエリクソンの発達・成熟段階のうち、児童期では好奇心や探究心が開発される時期とされていて、好奇心や探究心はやがて勤勉さへとつながる。これら2つの「そうぞうりょく」を生み出す遊びは、砂遊びや粘土遊び、ブロック遊びが該当する。砂を使って穴や山を作ったり、粘土やブロックを使って自分の思い浮かんだアイデアを実際に手指を使って形にすることで様々な物の特性や関係性を理解する。つまり、これらの遊びは子どもたちに自由な発想とあたらしいアイデアを具体的な形にする楽しさを学ばせる。そうして、自然と子どもたちの2つの「そうぞうりょく」を高めることができるといえる。

5.考察④：ルールの発生による効果

子どもの遊びはただ好き勝手に行われていないと考えられる。たった二人で行われている砂場遊びにも、二人が満足いくようにするために自然にルールが作られている。このように、ルールが発生することで倫理観や道徳観を育て、規則を遵守し、役割や責任を果たすといった社会的ルールを身につけさせる効果がある。また、仲間と遊ぶことにより、皆が満足するには自己中心的に行動することはできない。そのため、気持ちをコントロールする自制心も必要になり、自然と身につける効果もある。

6.考察⑤：遊びと勉強

遊びと勉強はつながっていると考えられる。他者と協調していく力や自らに意欲を待たせる力、自分の内面をコントロールさせる力といった、いわば非認知能力を子どもたちは様々な経験を通じて身につけていく。非認知能力の獲得をないがしろにして、知識や技能ばかり教えすぎても、自分

から認知能力を獲得して知識や技能の向上につなげようといった意欲を低下させてしまうこともある。だから非認知能力を身につけることは、認知能力を身につけるための基盤となる。非認知能力は遊びで身につけ、そして認知能力は勉強を通して身につけることができる。したがって勉強で得られる知識は、遊びを経験することで得られやすくなると考えられる。

7. 結論

無意識のうちに発生する乳幼児の遊びを通して対人関係の形成、自己の信頼感や快感情の獲得、友達と仲良くすることや創造力・想像力の向上、社会的ルールを身につけたり、気持ちをコントロールする自制心を獲得する効果がある。そして、これらの非認知能力を遊びを通して身につけていくことで、知識や技能を身につけるための基盤となると考えられる。したがって、乳幼児期に行われる遊びはこれからの人生に必要な考え方や感情を身につけさせる効果があるから、乳幼児は遊びをすることを考える。これからの課題としては、青年期や成人期に行う遊びの効果である。生活を豊かにする趣味や教養も遊びのうちであるといった記述が文献(岡本夏木、『幼児期-子どもは世界をどうつかむか』)にあるため、どのような効果があり、また乳幼児期の遊びとはどのような違いがあるのか考察していきたい。さらに、乳幼児期とまとめたが年齢によってできること(言語が使えるかどうかなど)が特に違う年齢層でもあるため、細かく年齢によっての遊びの効果の違いについて考察していきたい。

8. 参考文献

- ・ 松村明.大辞林[第4版].三省堂, 2019.
- ・ M.A.ボーデン.ピアジェ.岩波現代選書,1980,p52-58
- ・ 岡本夏木.幼児期-子どもは世界をどうつかむか.岩波新書,2005,p79-90.
- ・ ハヴィガースト.人間の発達課題と教育: 幼年期より老年期まで.牧書店,1958,328p.
- ・ 長橋聡.子どものごっこ遊びにおける意味の生成と遊び空間の構成,J-STAGE,2017,
<https://doi.org/10.11201/jjdp.24.88>, (参照2023-11-08).
- ・ 佐々木正美.子どもの心はどう育つのか.ポプラ新書,2019,160p.
- ・ 子どもの想像力と創造力を育むヒント|遊びを通して一生ものの体験を,Gakken,
<https://www.gakken.jp/homestudy-support/edu-info/22321/> (参照2024-06-21).
- ・ 中山芳一.学力テストで測れない非認知能力が子供を伸ばす.東京書籍,第三版,2018,p104-111.
- ・ 波多野諄余夫,稲垣佳世子.知的好奇心.中公新書,1973,200p.
- ・ 太田列子.
「内なる他者」と「間主観性」の接点ーアンリ・ワロンとD.N.スターンの発達論の比較からー.
山口県大学共同リポジトリ,2007,
<https://ypir.lib.yamaguchi-u.ac.jp/bg/668/files/135971>,(参照2024-07-02).

ディズニー音楽の魅力

1. はじめに

ウォルト・ディズニー・アニメーション・スタジオ（以下ディズニー社）は創業年の1923年から2024年現在までに計62の長編映画作品を制作している。それらの作品にはいくつかの楽曲が演奏される。ディズニー社の作品の1つ『アナと雪の女王』（2013）はデンマークの童話作家ハンス・クリスチャン・アンデルセン（Hans Christian Andersen,1805-1875）の童話『雪の女王』（1844）から着想を得て制作された作品である。『雪の女王』に登場する雪の女王は悪役として描かれていた。しかし、『アナと雪の女王』では雪の女王（エルサ）は主人公の1人として描かれている。雪の女王のキャラクター設定を大きく変えたのは《Let It Go～ありのまま～》（作詞,作曲:Robert (Bobby) Lopez & Kristen Anderson-Lopez）という楽曲である。この楽曲について作詞,作曲者は以下のように語っている。

Bobby: The entire story was different when we first came on. Elsa was the villain like in the classic Disney story. She had blue skin and blue hair.

Kristen: It was a great live action, but there wasn't the joy and the strong feelings that you'd want to hear songs about. So, we completely revamped the characters. ¹⁾

ロバート:私達が作品の楽曲を制作し始めた当初は、物語の全体は全く別のものでした。エルサは古典的なディズニー映画に登場するような悪役だったのです。彼女の肌と髪は青色でした。（著者訳）

クリステン:それは良いアニメーションでしたが、皆さんが楽曲を聞きたいと思えるような喜びや強い感情がありませんでした。そこで私達はキャラクター設定を刷新しました。（著者訳）

この例から、ディズニー社の長編映画作品に登場する楽曲は作品において最も重要な要素の1つであると考えた。本稿ではディズニー社の長編映画作品で演奏される楽曲に施された工夫が作品をどのように彩っているのか考察する。

本稿では『リトル・マーメイド』（1989）、『美女と野獣』（1991）、『アナと雪の女王』（2013）の3作品で演奏される楽曲について述べる。各作品の概要とあらすじは以下の通り。

『リトル・マーメイド』（1989）

・概要

1966年にウォルト・ディズニーが亡くなったことを要因の1つとした1970～80年代のディズニー社の暗黒期を打開した作品。この作品の公開以降約10年間は「ディズニー・ルネサンス」とよばれ、この時期に公開された作品に『美女と野獣』（1991）や『アラジン』（1992）などがある。この時期の作品はすべて様々な映画賞にノミネートされ、多くの作品が映画賞を受賞した。²⁾

・あらすじ

海の世界で暮らす人魚姫のアリエルは、いつか人間の世界に行きたいと願っている。ある夜、アリエルは航海をしている人間の王子エリックに一目惚れする。エリックが乗る船は嵐に巻き込

まれ、彼は船の外に身を投げ出されてしまう。アリエルは海に落ちたエリックを海辺まで運ぶ。その後、アリエルは海の魔女アースラに出会う。アリエルは自身の美しい声をアースラに差し出す代わりに3日間だけ人間の姿になってエリックに会いに行く。

『美女と野獣』（1991）

・概要

先述した「ディズニー・ルネサンス」の作品の1つ。アニメーション映画史上初めてアカデミー賞[®]最優秀作品賞にノミネートされた作品。また、作中で演奏される《朝の風景》《ひとりぼっちの晩餐会》《美女と野獣》の3曲がアカデミー賞[®]にノミネートされ《美女と野獣》が作曲賞と主題歌賞を受賞。³⁾

・あらすじ

ある国の王子は人を見かけで判断した罰として恐ろしい野獣の姿に変えられてしまった。王子が愛することを学び、そのお返しに愛されるようになれば恐ろしい野獣の姿から人間の姿へ戻る。年月が過ぎ王子は人間の姿に戻る希望を失っていた。その時、とても美人だが町の人々に「変わり者」だと言われているベルが野獣と出会う。初めは嫌悪感を抱いていた2人だが、少しずつ惹かれ合っていく。

『アナと雪の女王』（2013）

・概要

ディズニー社のアニメーション作品で初めてアカデミー賞[®]長編アニメーション賞を受賞した作品。²⁾主題歌の《レット・イット・ゴー～ありのまままで～》はアカデミー賞[®]歌曲賞を受賞。ディズニー映画の世界興行収入ランキングでは第一位が2019年公開の『アナと雪の女王2』（14億5000万ドル）、第二位が『アナと雪の女王』（12億8000万ドル）と、本作品とその続編が並ぶ結果となった。⁴⁾

・あらすじ

アレンデールという国に住む触れたものを凍らせる力を持つエルサと、その妹アナの姉妹の愛の物語。エルサは幼少期に自身の力でアナを傷つけてしまい、以降その力を隠すように生きてきた。アナはその力についての記憶が残っておらず、エルサと一緒に遊んだ記憶だけが残っている。自身の戴冠式の日その力がアナや国民に知られてしまったエルサは国から遠く離れた雪山に閉じこもってしまう。また、エルサの力により真夏だったアレンデールは一瞬にして真冬になってしまう。アレンデールに夏を取り戻し、エルサを国に連れ戻すためにアナはエルサのいる雪山に向かう。

本稿で述べる楽曲の作詞者、作曲者は以下の通り。

『リトル・マーメイド』（1989）

《パート・オブ・ユア・ワールド》

（作詞:Howard Ashman 作曲:Alan Menken 日本語訳詞:松澤薫 近衛秀健）

『美女と野獣』（1991）

《朝の風景》（作詞:Howard Ashman 作曲:Alan Menken）

『アナと雪の女王』（2013）

《生まれてはじめて》

（作詞,作曲:Robert Lopez & Kristen Anderson-Lopez 日本語訳詞:高橋知伽江）

《雪だるまつくろう》（作詞,作曲:Robert Lopez & Kristen Anderson-Lopez）

《レット・イット・ゴー～ありのままで～》

（作詞,作曲:Robert Lopez & Kristen Anderson-Lopez）

2. メロディー

『美女と野獣』（1991）の冒頭で《朝の風景》という楽曲が演奏される。この楽曲は主人公ベルのキャラクター設定やベルが住む町の人々との関係性、ベルや町の人々の日常が表現された楽曲である。約5分間のこの楽曲では下記のメロディーが計6回（歌詞がない部分も含めると計7回）演奏される。

《朝の風景》（『美女と野獣』（1991）より）

The image shows a musical score for the song 'Morning Landscape' (朝の風景) from Disney's 'Beauty and the Beast' (1991). The score is written in treble clef with a key signature of one flat (B-flat major). It consists of three staves of music. The first staff contains measures 1 through 5, with lyrics 'ミ ファ フ ソ ミ ファ レ ミ ソ ミ ソ ド レ ファ' written below. The second staff contains measures 6 through 10, with lyrics 'ミ ド レ ラ ソ ソ ラ シレ ソ ラ ド ファ ファ ヴ' written below. The third staff contains measures 11 through 15, with lyrics 'ラト ファ ソ シレ ミト ミ ファ ソ ミト ファ レ ミレ ド レ シ ド' written below. The lyrics are in a stylized, phonetic representation of the Japanese text.

同じメロディーを何度も繰り返すことで、ベルや町の人々が同じような日々を繰り返す「日常」を表現していると考察される。

ベルはこの「日常」から抜け出して「もっと素敵な世界」へ行きたいという願いがある。『美女と野獣』（1991）ではこの願いを叶えていく様子が描かれる。ベルの願いの対となる「日常」を強調するために、この楽曲では「日常」を歌詞やアニメーションだけではなくメロディーでも表現していると考えられる。

3. I Want ソング

I Want ソングとは主に作品の冒頭で演奏される キャラクターの願いを歌う楽曲である。I Want ソングはミュージカルでよく使用される。ディズニー社では《夢はひそかに》（『シンデレラ』（1950）より）、《僕の願い》（『ノートルダムの鐘』（1996）より）、《夢まであとすこし》（『プリンセスと魔法のキス』（2009）より）、《自由への扉》（『塔の上のラプン

ツェル』(2010)より)など、多くの作品でI Want ソングが演奏されている。本稿では以下の2つの楽曲を例に挙げ、I Want ソングを使用することによる効果を考察する。

例1 《パート・オブ・ユア・ワールド》(『リトルマーメイド』(1989)より)

この作品に登場する人魚姫のアリエルは父トリトンに海の世界から出ることを禁じられている。しかし彼女は海に落ちている人間が使用する道具(フォークなど)を集めるほど人間の世界が好きで、人間の世界に行きたいと願っている。この楽曲ではこの願いを彼女自身が歌う。

アリエルが歌う歌詞(一部抜粋、上段:英語版歌詞 中段:日本語版歌詞 下段:和訳)

“When’s it my turn? Wouldn’t I love, love to explore that shore up above?
Out of the sea wish I could be part of that world”

“いつの日か 陸の世界の 果てまでも行きたい 人間の世界へ”

私の番はいつ? 海の上にある世界を冒険してみたい 海から出て 人間の世界の一部になれたらいいのに (著者訳)

例2 《生まれてはじめて》(『アナと雪の女王』(2013)より)

エルサとアナが暮らすアレンデル城は、エルサの魔法の力を国民に知られないように窓やドアが締め切られていた。しかし、エルサの戴冠式の日には様々な国やアレンデルの国民が城を訪れるので城の門が開かれる。アナは久しぶりに開けられる窓やドア、城内で戴冠式の準備をしている様子を見て心を踊らせる。また、アナは音楽に乗ったり踊ったりするなど「生まれてはじめての体験」をしたいと願う。彼女に対してエルサは誰かに自分の魔法の力を気づかれてしまうことを恐れているため、門が開かれないことを願っている。この楽曲ではアナの「願っていること」とエルサの「願っていないこと」の対照的な2つが歌われる。

・アナが歌う歌詞(一部抜粋、上段:英語版歌詞 中段:日本語版歌詞 下段:和訳)

“For the first time in forever I’m getting what I’m dreaming of
A chance to change my lonely world A chance to find true love
I know it all ends tomorrow So it has to be today”

“生まれてはじめて 自由に暮らせるの すべてを変えよう 恋を見つけて”

生まれてはじめて 私が夢見ていることが現実になっている (今日は)私のひとりぼちな世界を変える機会 真実の愛を見つける機会 明日にはすべておわってしまうことがわかってるわ だから今日手に入れるしかないの (著者訳)

・エルサが歌う歌詞(一部抜粋、上段:英語版歌詞 中段:日本語版歌詞 下段:和訳)

“Don’t let them in, don’t let them see Be the good girl You always have to be
Conceal Don’t feel Put on a show Make one wrong move And everyone will know”

“一人でいたいのに 誰にも会いたくない もしもこの手で触れたら 皆気づいてしまうわ”

彼らを城に入れさせないで 彼らに見せないで 私はいつも良い子でいなければいけない
隠して 落ち着いて 完璧な自分を演じてみせる 一つでも間違った行動をすれば皆私の力に
気づいてしまう (著者訳)

ディズニー作品は作品冒頭でキャラクターの願いを示したあと、そのキャラクターがどのよう
にして願いを叶えていくのかということが描かれる。ディズニー作品でI Want ソングを使用す
ると観客は物語の軸である「願い」を理解した上でその先の物語をみることができると、作品
の世界への没入がしやすくなるのではないかと考える。

4. リプライズ (再現)

リプライズ (再現) とは、同じ楽曲を作中の異なる場面で何度も演奏する手法である。3. I
Want ソングで記した《パート・オブ・ユア・ワールド》でもこの手法が使用されている。この
楽曲は以下の3つの場面で演奏される。

1回目: アリエルが人間の世界へのあこがれを歌う場面

2回目: アリエルが一目惚れした人間の王子 エリックに必ず会いに行くと決心する場面

3回目: エンディング (アリエルが願いを叶えて人間になり、王子と結ばれた場面)

それぞれの場面の歌詞を以下に示す。(上段: 英語版 中段: 日本語版 下段: 和訳)

1回目: “Out of the sea, wish I could be Part of that world”

“行きたい 人間の世界へ”

海から出て 人間の世界の一部になれたらいいのに (著者訳)

2回目: “Watch and you’ll see Someday I’ll be Part of your world”

“必ず会いに行く あなたに”

見ていて、そうすれば今にわかるわ いつか私はあなたのいる世界の一部になってみせ
るの (著者訳)

3回目: “Just you and me And I can be Part of your world”

“あなたと私の世界で”

あなたと私だけ 私はあなたのいる世界の一部になれる (著者訳)

下線部に注目すると、1回目では “part of that world” という歌詞であるのに対し、2,3回目では
“part of your world” という歌詞に変化していることがわかる。1回目の場面のあとアリエルは
航海をしている人間の王子エリックに出会い一目惚れする。エリックが乗る船は嵐に巻き込まれ
て彼は海に落ちてしまう。アリエルは彼を助けて海辺まで運ぶ。この際に2回目の《パート・オ
ブ・ユア・ワールド》が歌われる。このことから、1回目の “Part of that world” は単に「人間
の世界の一部」を表しているが、2回目以降の “Part of your world” は「エリックのいる人間の
世界の一部」を表すと考えられる。1回目と2回目の場面の間で変化したアリエルの心情を、同じ

楽曲を使用して歌詞の一部分を変化させることで観客に示しているのではないだろうか。

この例から、リプライズには何度も同じメロディーを観客に繰り返し聞かせることでメロディーを印象付ける効果に加えて流れている場面ごとのキャラクターの心情や状況の変化を示す効果があると考察できる。

5. 楽曲と映像の相乗効果

例1 《雪だるまつくろう》（『アナと雪の女王』（2013）より）

エルサが自身の力でアナを傷つけてしまったあと、仲の良かったエルサとアナの距離は離れていく。アナはエルサの魔法のことが記憶に残っておらず、なぜか突然距離を置かれた姉エルサと遊びたいと願っている。この楽曲はアナがエルサに「一緒に遊ぼう」と呼びかける歌である。この楽曲が使用されているシーンを見ると、アナとエルサが少しずつ成長していく様子が描かれていることがわかる。さらに、楽曲の間奏（約30秒間）ではエルサとアナの両親が2週間の航海の最中、彼らが乗る船が荒波に飲まれてしまう様子も描かれている。このシーンで使用されている暗いメロディーと、船が荒波に飲まれる様子、黒っぽい服を着た城の召使いたちがエルサとアナの両親の肖像画に黒い幕をかける様子、そして葬儀のようなものが行われている様子から、彼らが海難事故により亡くなってしまったことを観客に示している。

例2 《Let It Go～ありのままで～》（『アナと雪の女王』（2013）より）

エルサが戴冠式で妹アナや国民に自分の魔法の力が気づかれてしまったあと、エルサが雪山で氷の城をつくりながら歌う楽曲である。この楽曲をきくと、歌詞やテンポの変化からエルサの心情の変化が読み取れる。また、この楽曲が演奏されている際の映像をみると、楽曲が進行していくにつれてエルサが身につけていた手袋、マント、ティアラが外されていることがわかる。これらの装飾品に込められたそれぞれの意味を考察する。

手袋:エルサ自身の魔法の力を落ち着かせ、人に見せないようにするもの

マント:「良い女王でいなくてはならない」というプレッシャーや国民からの期待

ティアラ:アレンデールの女王である象徴

手袋についての考察は《雪だるまつくろう》という楽曲の中の“The gloves will help. See? Conceal it. Don't feel it. Don't let it show.” 手袋が助けになる ほら 力を隠して 落ち着いて 誰にも見せないで （著者訳）とエルサの父と幼少期のエルサが会話をするシーンによるもの。

「ありのまま」の自分であるために自分の魔法の力を隠す必要はなく、アレンデールの女王である必要もない。これらの3つの装飾品を外していくことでエルサの心情が「葛藤」から「ありのままの自分で生きる決意」へと変わったことを聴覚からだけでなく視覚でも表していると考察される。

6. おわりに

ウォルト・ディズニー・アニメーション・スタジオの長編映画作品で演奏される楽曲にはメロディー、I Want ソング、リプライズ（再現）、楽曲と映像の相乗効果の4つの観点において工夫が施されていると考察される。作品に音楽を取り入れると、言葉だけでは印象に残りづらい複雑なストーリーやキャラクター設定などをメロディーに乗せて観客に示すことで理解しやすくなったり、セリフだけでは十分に表現できないキャラクターの感情を素直に伝えたりする効果が

あると考えられる。それらの工夫が施されたり、映画の舞台となる地域特有の楽器や音階を効果的に使用したりしている楽曲は作品自体の大きな印象となり、楽曲を聴くだけで作品の世界に引き込まれる。音楽はディズニー映画に欠かせない存在ではないだろうか。

7. 参考文献

・谷口明弘（2016）.『ディズニー・ミュージック—ディズニー映画 音楽の秘密』.株式会社スタイルノート.

- 1) GRAMMY AWARDS.”From “Let It Go”To”Remember Me”:Songwriters Bobby Lopez&Kristen Anderson-Lopez Share Stories Behind Their Most Popular Songs”. GRAMMYS.2023.4.4.<https://grammy.com/news/hobby-lopez-kristen-anderson-lopez-song-writers-behind-the-hits-let-it-go-up-here-coco>
- 2) ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社.”今だからこそみたい！ディズニーの歴史を変えた4つの名作”.Disney.jp.2023.9.22.<https://www.disney.co.jp/corporate/news/2023/20230922>
- 3) ディズニープラス.”アラン・メンケンによるディズニーの名曲・代表曲をディズニー映画の美しい映像とともに振り返ろう”2023.11.27.
<https://disneyplus.disney.co.jp/blog/maximum-guide/alan-menken>
- 4) やぐち.”【興行収入ランキング】ディズニーで最も「売れた・売れなかった作品」は?”.エンタミート.2024.2.22.<https://dream.jp/entmeet/article/65d7083d3461363ac0986d19/>

言語習得と「日本語」の影響力

1. はじめに

人と人とのコミュニケーションにおいて、言葉は不可欠なものである。しかし言葉を介しても、伝えたいことを相手に完全に伝えることはとても難しいことだ。言葉は完全な情報/意思伝達ツールと捉えるには不十分といえる。それでは、このように不完全な「言葉」を私達人間が理解し、使いこなすことによる意義はどのようなものなのだろうか。また、言語によって世界の切り分け方、認識は異なると言われるが、習得する言語が違えば、認識にはどのような差異があるのだろうか。本稿では、子どもの言語習得の過程をたどり、言葉によってもたらされる変化などから人の言語習得の意義について考察し、また日本語を中心に習得言語の影響力について検討した。この考察は、言語習得の位置づけを再確認するとともに、言語由来の日本語話者の特徴について考察することを目的とする。

2. 考察-物事の分類の習得

まずは、言語習得が子供にもたらす変化の一つ、物事の分類方法の習得について論じる。言葉を知らない子供は、事物の一連の動きを見て同一のものかそうでないかを判断する。同じ動きをしているもの同士を同じもの、対して違った動きをしているもの同士を異なるものと認識する。言葉を知らない子供にとっては、物の動き方のみが物事の判断材料になり得るとのことだ。さて、そのような子供が色や形などの言葉を知ることは、「外見」という新たな視点を獲得することになる^{*1}。これにより、今までとは別の方法、つまり物の動きだけでなく見た目の違いに着目して物事を判断できるようになる。外見から事物を同じもの、あるいは違うものとしてはっきりと認識できるようになるのだ。図Iのような場合を例に出して説明する。目の前に跳ねているボールと跳ねている箱の2つがある状況を考える。下部の2つの四角は、それぞれの子供が持つ語彙を表している。この状況を認識する場合、跳ねているという動きは同じであるが、右は箱が、左はボールが跳ねているなどの違いがある。「黒色」「白色」「丸い」「四角い」「ボール」「箱」などの言葉を知っている私達は、色や形の違うボールと箱とを区別して認識することができるだろう。しかし、このような語彙を持たない子供は、ボールと箱が別のものであることを認識できない。色や形などの言葉を知らない、つまり色や形などに関する認識の方法を持たない子供は、跳ねているという動きだけを見て、この二つを同じものであると判断するのだ。このことから、言語を学ぶことは、物事の判断材料を身につけ、目に映るさまざまなものの認識の幅を広げることになる。認識の幅を広げ、様々な判断ができるようになることは、大人や社会の持つ言語感覚に近づいていくことにもつながる。

また人の思考においては帰納的推論(：個別的・特殊的な事例から一般的な規則・法則を見出そうとする論理的推論の方法)が最も重要であり、かつ頻繁である^{*1}。つまり子供は、直接体験により言葉を学んで物事を認識していくとともに、帰納的推論によって、自分が直接経験したり教わったりしていないものについても概念を構築していく。



図Ⅰ. 語彙力と認識の差

3. 考察-母語的感覚の習得

次に、言語習得と母語的感覚について論じる。言語の語彙は文化の特徴をほぼ忠実に表す*²。例えば、「米」という概念には英語では「rice」の一単語しか対応しないのに対し、日本語には「黒米」「赤米」「玄米」などたくさんの言葉がある*²。これは英語圏に比べて日本語圏では米作がさかんに行われていたことから、米の成長過程を詳しく分類したり、指し示したりする必要があったためだと考えられる。また北アメリカなどのイヌイットの人たちが暮らす地域は日本に比べて雪がよく降り、降雪を生活にも利用している。このような背景のもと、イヌイット語には二〇種類以上の「雪」を表す単語がある*¹。対して日本語で「雪」の概念を表すことができるのは「雪」の一単語のみだ。このことから、言語は環境に依存しており、その地域を生きるのに適した物事の分類が行われていると推測できる。

言葉	意味
アニユ	溶かして飲料として利用する雪
ブカック	きめ細やかな雪
アウベック	イグルーを作るために切り出した雪
アブット	積もっている雪
ベシュトック	吹雪
カニック	降っている雪、切片としての雪

図Ⅱ. イヌイットの雪に関する表現（一部）*³

次に、生まれたばかりの子供の語彙習得の特徴について考察する。生まれたばかりの赤ちゃんは、それぞれの言語でつくる音のカテゴリーを明確に持たないが、生まれてから自分の言語にさらされ、そればかりを聞くうちに母語の音のカテゴリーを学習し、音に関しての母語特有の知覚をつくりあげる*¹。日本語話者が英語を学ぶ際に難易度の高いと言われていた、「L」と「R」の聞き分けを例に説明する。母のお腹の中にいるときや生まれたばかりの赤ちゃんは、この「L」と「R」を聞き分ける能力が、

今の私達よりも優れているのだという。しかし日本で育ち、日本語に囲まれた生活を送る中では「L」と「R」の聞き分け能力が必要な機会は少ない。子供は自分の母語では重要ではない場所、注目しない場所の情報に注意を向けることを忘れてしまう生き物^{*1}であるため、日本語以外の言語に触れることが少ない環境では、日本語の発音に慣れ、日本語を習得していく中で次第に「L」と「R」を使い分ける能力が衰えていってしまう。子供は生きていく中で、その環境を生きるのに必要な能力を獲得し、いらぬ能力は省くなどして、環境に適応しながら生きていくのだ。すなわち、子供は身の回りの環境に順応して生きていく。

以上より、言語は環境に依存すること、そして子供は環境に順応できる生き物であることがわかる。これにより、子供にとって言語を学ぶことは、その言語の感覚を手に入れ、文化に順応していくことにつながると考えられる。地域に適した言葉を理解し、使いこなせるようになることは、その言語の感覚を理解することにもつながる。更に、人間の思考は常に言葉を介して行われる^{*1}ため、子供だけでなく大人も、絶えず習得言語の影響を受けていることがわかる。

4. 考察-日本語習得における影響

続いて、日本語の習得がもたらす変化について検討する。日本語は、主語が必須ではなく語順もさほどの厳密性を持たないという特徴をもつ^{*3}。日本語はありとあらゆる学問、学芸が行われてきたにもかかわらず、言葉の使い方については曖昧な部分が多い^{*4}。これには、日本では島国という閉鎖的な環境のもと、外国の影響は受けつつも国内で比較的等質な文化が共有されてきた^{*4}ことが関係する。大陸では、陸続きに異なる価値観や文化が混在していたため、お互いを分かりあうためにはそれぞれの文化や価値観についての説明が不可欠であった。お互いの文化や価値観が異なる可能性が高いため、基本的な不一致や前提の違いを当然と捉えながら、言葉による情報をもとに、相手のことを理解することに努めたのだ。対して日本では、絶えず外国の影響を受けながらも、島国という環境を活かし、国内で比較的等質な文化を共有してきた。そのような環境ではみな近い価値観や文化を持っているため、お互いに関しての緻密な説明は必須ではなかった。言葉で細かく説明しなくても、お互いが持つ文化や価値観について分かりあえていたのだ。このような背景から、日本人はコミュニケーションにおいて相互一致を前提とする傾向^{*5}にある。意思伝達や情報伝達の際にも言葉による物事の理解、というより、お互い既知の事実の確認や共感という要素が強い。つまり、コミュニケーションにおいて相手との基本的な不一致を前提とする大陸に対し、日本は相互理解が可能だという認識を前提とする^{*5}。日本語が厳密性を持たないのは、言葉を介さずとも分かり合い、言語に頼らずとも生活が円滑に進んだため、言語による細かい規定が求められなかったからだ。言葉を必須としなかった状況から言葉での伝達よりも感得や察知を重要視してきた日本語話者は、厳密性を持たない日本語に絶大な信頼をおかず、その一方で相手と同質になろうと、相手への感得に努める傾向にあるといえる。

5. 考察-日本文化との関連性

ここまで、習得言語が個人の思考や価値観を形づくることを論じ、日本語話者の場合は言葉に頼らず相手のことを感得するという感覚を持つと考察した。最後に、論証3で論じた日本語、日本語話者の特徴と、日本文化との関連性について、例を交えて検討する。まずは、オノマトペについてだ。英語にはオノマトペが150語ほどしかないが、日本語には4500語ものオノマトペが存在して^{*6}おり、日本語はオノマトペの多い言語であると言っていることができる。オノマトペとは、物の状態や音を直接的に表した擬音語・擬態語のこと^{*7}である。オノマトペは論理的言語説明による再現が難しい^{*8}、つまり言葉による意味の説明がしにくい言葉だ。意味が明確でないオノマトペを日本人が難なく使いこなしていることは、論証3で論じた日本語話者の特徴を裏付ける事象であるといえる。また、日本の和歌文化も日本語話者の特徴を表す。和歌には婉曲表現が用いられがちである^{*9}が、この直接的に表現されない部分に魅力や趣を感じるという日本固有の文化も、日本語話者の感得の特徴が表れたものだと推測できる。

6. 結論

言語を習得することは、物事の新しい分類方法や母語話者としての感覚を身につけることにつながる。また日本語を習得する場合は、日本語習得の過程で日本語特有の察し合う、分かりあう文化に順応することになる。

今後は、言語が人間に与える変化、特に日本人の特徴と日本語についてより深く考察していきたいと思う。日本人は一般的に対話に対する忍耐力がない、気配りができるなどと言われることが多いが、これが日本語習得によっての変化だと説明できるのか、詳しく調査したい。また言語は人間に認識や思考などにおいて影響を与えるが、逆に認識や思考が言語によって規制されてしまっていないか、言語と構造主義との関係性についても検討していきたい。

7. 参考文献

- *1 今井むつみ. 「ことばと思考」. 岩波新書. 2010
- *2 綾部恒雄, 田中真砂子. 「文化人類学と人間」. 三五館. 1995
- *3 宮岡伯人. 「言語の違い、認識の違い」. 大阪学院大学情報学部. 2006
- *3 新屋映子. 「日本の無主語文をめぐって」. 桜美林大学言語教育研究所. 2013
- *4 鈴木孝夫. 「閉ざされた言語・日本語の世界」. 新潮選書. 1975
- *5 鴻上尚史. 「コミュニケーションのレッスン」. 大和書房. 2016
- *6 合宿制語学学校ランゲッジ・ヴィレッジ. 「日本語と英語のオノマトペを概観する」. 合宿制語学学校ランゲッジ・ヴィレッジ. 2022
- *7 weblio辞書. 「オノマトペ」. weblio辞書. 2023.
- *8 ライオン. 「私たちの習慣は言葉で作られた？子どもの力を引き出すオノマトペの魅力」. ライオン. 2024
- *9 篠寄あゆみ. 「「鉢かづき」における和歌-独詠歌の表現性-」. 日本大学大学院国文学専攻論集. 2014
- * 平田オリザ. 「わかりあえないことから-コミュニケーション能力とは何か-」. 講談社現代新書. 2012
- * 今井むつみ. 「言葉の発達謎を解く」. ちくまプリマー新書. 2013
- * 今井むつみ, 秋田喜美. 「言語の本質-言葉はどう生まれ、進化したか」. 中央公論新社. 2023

8. 謝辞

大阪大学・全学教育推進機構の堀一成教授、坂尻彰宏准教授には、本研究におけるアカデミック・リーディング、アカデミック・ライティングに関して温かいご指導を賜りました。深謝いたします。

大阪公立大学・国際基幹教育研究院の福島祥行教授には、有益な助言と資料提供をいただきました。心より感謝を申し上げます。

最後に、この度の一連の研究活動並びに中間発表、最終発表においてご指導ご鞭撻を賜りましたすべての方々に、この場を借りて深く御礼申し上げます。

日本の財政破綻

1. はじめに

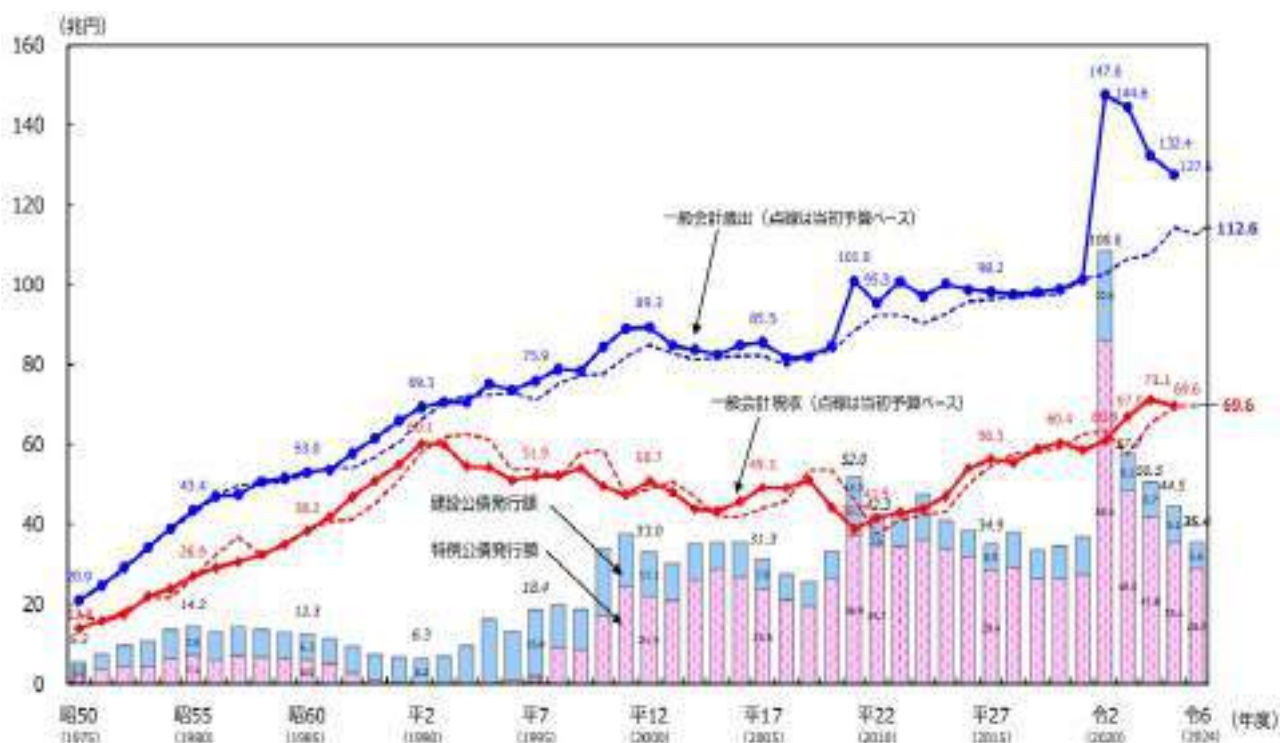
数年前に私は国債についてニュースで聞いた。そして国債に興味が出て調べるようになった。そのうちに国債をなくす方法について調べるようになった。そこで私は財政に着目することにした。そして日本の財政を調べているうちに日本が財政破綻するかもしれないと考えた。

2. 考察

まずここでの財政破綻は国の経済状況、ここでは歳出(4月から翌年の3月までの一年間の支出)、税金(国や地方公共団体が徴税によって得る収入)、物価(様々な財・サービスの値段を一定の方法で総合した平均値)、経常収支(金融収支に計上される取引以外の、居住者・非居住者間で債権・債務の移動を伴う全ての取引の収支状況)の4観点のみで考えることとする。その上で2009年に財政破綻を宣言した当時のギリシャの経済状況から現在の日本が財政破綻するのかについて考察することにした。

*現在の日本の経済状況

まず日本の歳出を見ると、1995年から当初の予算ベースよりも実際の歳出が上回っていて2020年にコロナウイルスの影響でコロナ対策特別費などが作られて147兆円まで跳ね上がったがここ数年でコロナウイルスによる影響がほとんどなくなって2023年には127兆円まで抑えられている。次に税金を見ると、1990年まで増加傾向で60.1兆円まで上がったがそこから2010年まで減少傾向になり38.7兆円まで減少した。しかしそこから持ち直して2023年で69.6兆円まで回復している。また物価を見ると、日本の政策金利が0.1%、アメリカの政策金利が5.25%~5.5%となっていて日米間で大きな政策金利の差が生じた。よって円売りドル買いの動きが加速した。この影響によって円安になった。したがって、日本で作る製品の原材料などの輸入コストが増加して物価が上昇している。最後に経常収支を見ると、日本は先ほど紹介した円安などの影響で貿易赤字ではあるが、経常収支は第一次所得収支(対外金融債権・債務から生じる利子・配当金等の収支状況)が大きく黒字であるため経常収支全体の収支としては、黒字を維持している。



(https://www.mof.go.jp/tax_policy/summary/condition/a02.htm より引用)

＊当時のギリシャの状況

まず歳出を見ると、2007年まで年々増加し続けていて2009年に最大の約1284億ユーロを記録した。次に税金を見ると、2008年まで年々増加し続けていて2008年に約984億ユーロを記録した。また物価を見ると、当時のヨーロッパではユーロ圏にて通貨統合が行われた。そしてギリシャも2001年にユーロに参加した。その影響によって、物価水準がユーロ圏における高物価国のドイツやフランスの水準に合わせられた。したがって、ギリシャの物価が相対的に上がった。最後に経常収支を見ると、経常収支は2009年まで赤字が悪化していて、2006年から赤字が大幅に拡大していき、2009年に過去最大の約360億ユーロの赤字を記録した。

3. 結論

経済状況の観点だけで見ると、日本の経常収支が黒字を維持し続けることができれば、日本が財政破綻することはない。

4. 参考文献

小野善康、資本主義の方程式、中公新書、2022

小塩隆士、高校生のための経済学入門、ちくま新書、2002

田谷禎三、本庄真、宮崎勇、日本経済図説第四版、岩波新書、2013

田谷禎三、本庄真、宮崎勇、日本経済図説第五版、岩波新書、2021

世界経済のネタ帳

https://ecodb.net/country/GR/imf_bca.html

https://ecodb.net/country/GR/imf_ggxcnl.html

EUにおける通貨統合

https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/eu/euro_gaiyou.html

各国政策金利表

<https://mst.monex.co.jp/pc/servlet/ITS/report/CommonReport?serviceProviderKbn=04&documentClass=02>

財政に関する資料

https://www.mof.go.jp/tax_policy/summary/condition/a02.htm

我が国の経常収支の動向

<https://www.meti.go.jp/report/tshaku2023/2023honbun/i2210000.html>

ろう者に「行けたら行く」がないのはなぜか

1. 問題意識

耳の聞こえない人たちが用いている手や顔の表情で表現される視覚的な言語が「手話」であり、その言語を用いる人たちが「ろう者」である。一方で、耳の聞こえる人たちが声で話す言語が「音声言語」で、その言語を用いる人たちが「聴者」である。（亀井2009）1995年に「ろう者とは日本手話という、日本語とは異なる言語を話す、言語的少数者である」という一文に始まる「ろう文化宣言」（木村・市田 1995）が発表されたことによって、日本手話は言語であるという認識が広まってきた。日本手話は、日本語、英語、他の音声言語と比べて遜色なく機能する、日本語とは異なる統語構造によって成り立っている1つの完成された言語である。したがって日本手話には独自の特徴がいくつも見られる。例えば、関西圏では誘われた時に「行けたら行く」と返事をすると、「行けない」とあえて言うまでもなく、行かないという意味になる。しかし、日本手話を用いる人たちは、そのように行かないというキーワードを使わずに行かないことを暗に示すような、遠回しな返事をせず思ったことをそのまま伝える。ろう者が思ったことをそのまま伝えるのは、ろう者と聴者では文化の伝達方法や、コミュニティ、言語の性質が異なるからだと考えた。

2. 問い

ろう者が思ったことをそのまま伝えるのはなぜか。ここでは、音声言語習得以前に聴力を失い、日本手話を第一言語として用いるろう者を対象にする。（中途失聴者や、音声日本語に基づいた日本語対应手話を用いる人は対象でない）

3. 論

文献調査とインタビュー（大阪市の手話サークル「ひだまり」を2回見学し、サークルの皆さんとの会話から研究のヒントを得た）によりわかった次の3つのことを順に説明する。

1つ目は、ろう文化という視覚重視の文化は血縁関係を基盤としない文化である（金澤2015）ということだ。これは、ろう児(すなわち耳が聞こえず日本手話を使う子供)のうち、ろうの両親をもつろう児の割合は10%程度と言われることや、ろう者の80%程度がろう者同士で結婚すること、そしてろう者同士の結婚から生まれる子供の10%程度がろう児である、ということからわかる。たいてい音声言語を使う聴者は、文化を親から子へと伝えていく。しかしこれらのことから、ろう者は親がろう者でも子供が聴者であったり、親が聴者でも子供がろう者であったりして、文化を親から子へと繋いでいくことが難しい。このことから、ろう者は異なる環境で育ったろう者と話す機会が多く、誤解を避けるために遠回しな返事をしないと云える。

2つ目は、ろう者同士は強い同朋意識を持ち、情報を過剰共有する傾向があるということだ。ろうコミュニティのベースは聴覚特別支援学校の一つであるろう学校だ。ろう者の多くはろう学校で学んだ経験を持ち、ろう社会と深く関わりながら生活している。ろう学校はろう者の言語と文化の伝達場である。たいていの生徒は、ここで自分以外の聞こえない人に初めて出会い、ろう者としての意識を持つようになる。ろう学校ではクラス定員が8名で、例えば大阪府には4校しかなく、1学年10人不足で幼稚部から高校部まで一緒のクラス、また寄宿舎で起きている時間ずっと共に生活することさえあり、人と人の距離が近い。そのためパーソナルな質問をすることも多くなる。例えば友達の赤ちゃんを見に行った時に「猿みたい」と言ったり、聴者が聞いたら失礼であろうことも言うそう。聴者のコミュニティでは友達くらいの距離感の人に、直接的な見た目の評価を言われることはほとんどない。一方で、親戚に「太ったか?」「髪切りすぎちゃうか?」などと親しみを込めて言われることはあるだろう。ろう者の赤ちゃんに対する評価はそ

れに似ているといえる（高嶋2022）。人と人の距離が近いろう者のコミュニティでは相手との距離感が親戚のおじさんくらいでも不思議じゃない。このことから、ろう者は互いをありのままに知りたいという思いからも遠回しな返事をしないといえる。

3つ目は、日本手話は視覚言語であり、ろう者の遂行する画像思考と一体である（高山2021）ということだ。音声言語が音声によって表現されるのに対して、手話言語は手や身体の動きや、表情、空間の使い方によって表現されるという画像的な性質をもつ。そして、手話言語の画像的な性格はその表しかたが画像的だということにとどまらず、より根本的であり本質的だ。つまり、ろう者は画像で考えるということだ。これは、日本人の聴者が日本語で考えるように、日本人のろう者は日本手話で考えるのでは？と思いがちだが、ろう者は画像そのもので表現し考えているということだ。例えば、「電車に乗り遅れたという状況を表してほしい」とろう者に言うと、電車の止まっている様子、走る人、閉まるドア、「あ～あ」といった顔などを、具体的に表現してくれる。まるで映像を作るかのようにすぐに表現する。また、交通事故の状況を手話で表せば、どの方向から、どんなスピードで、どんなふうにつぶつかったのかが一目瞭然でわかる。交通事故の様子を、あれこれ音声で説明を加えていくのに比べると、はるかに多くの情報を一度に相手に伝えることができる。日本手話は視覚言語であり、ろう者の遂行する画像思考と一体であることを言い換えると、聴者の場合は目の前に広がる視覚情報は音声言語に変換されて、その音声言語と思考がイコールになり、ろう者の場合は目の前に広がる視覚情報がそのまま思考になるということだ。それでは「良い・悪い」などの非画像的な概念はどう表されるのか。例えば、「今日は電車で、お年寄りに席を譲って、本当によかったなあ」と思い起こす場合を考える。ろう者はそのとき、「よかった」内容の具体的な場面を実際に画像として思い浮かべているのだ。お年寄りはとても嬉しそうだった、何度かお辞儀もしてくれた、と。

高山論文では、日本語を読む場合のろう者の発語のプロセスを次のように捉える。

・日本語を読む→画像を思い浮かべる→手話に翻訳〈全て頭の中〉

ろう者の両親を持つ関西育ちのコーダ（ろう者の親を持つ聴者の子供）に「行けたら行く」を手話で表したらどうなるのかと訪ねた。すると、「行くと思う」（手話表現を音声日本語に表した）かなあ、と言われた。「行くと思う」という言葉に、行けないことを暗に示す意味は含まれていない。よって、コーダが手話に翻訳したら「行くと思う」になるかなあと言ったのは、「行けたら行く」という言葉を画像として思い浮かべた時に行けないという要素は表れないためだろう。ただしこれはコーダに聞いたのであってろう者に聞いたわけではないため、ろう者の特徴に100%当てはまるとは言えない。しかしながらコーダの第一言語は両親の使う言語である手話なことも多く、参考程度にはなるだろう。このことから、日本手話は画像として認識されるため、ろう者は言葉をそのままの意味で捉えるといえる。

4. 結論

これら3つのことから、ろう者が思ったことをそのまま伝えるのは、ろう者と聴者では文化の伝達方法や、コミュニティ、言語の性質が異なるからだと考えた。また、3つ目の日本手話はろう者に画像として認識され、それはろう者の遂行する思考と一体であるということからは、ろう者が思っていることをそのまま伝えることの必然性がうかがえる。

それでは、世界の全ての手話でも思ったことがそのまま伝えられるのだろうか。また、ろう者の置かれている状況が変わっても（例えばSNSの普及によってより幅広い地域、年齢のろう者がつながり、日本全体で通じるようなろう者の共通認識をもてるようになる等）この特徴はあり続け得るのか。この研究は、様々な方向から発展する余地があるといえる。

日本人の聴者にとって、ろう文化は異文化の1つである。しかし、ろう文化という異文化の存在はあまり知られていない。ゆえに、ろう者のストレートな物言いを失礼に感じ「ろう者は失礼

だ」などの偏見を持たれることが多々ある。これからろう者についての研究が進み、ろう文化という異文化に対する聴者の理解が進むことを切に願う。

5. 参考・引用文献

- 亀井伸孝 (2009). 手話の世界を訪ねよう. 岩波書店
- 金澤貴之 (2005). 日本にあるもう1つの言語ー日本手話とろう文化.SYNODOS
<https://synodos.jp/opinion/education/12917/>
- Ashley G, Natalie J, Beverly B, Misty S, Abbas A (2020). Deaf Cultural Capital and its Conflicts with Hearing Culture : Navigational Successes and Failures
- 高山守 (2021). 手話言語における画像性の意味. 『手話学研究』 30.pp.1-17
- 佐々木倫子 (2020). ろう児へのことば教育の基盤にあるべきものー『リテラシーズ』の発展的終刊にあたって. 『リテラシーズ』 23 (終刊).pp.41-48. くろしお出版
- 高嶋由布子 (2022). 聴覚障害と自閉スペクトラム症の関係ー語用論の視点からー
<https://hattatsu.go.jp/notice/topics-pragmatics2/>
- 澁谷智子 (1998). マイノリティとしてのろう文化ー聞こえないことをどう捉えるかー.
pp25-34

7. 謝辞

手話サークルの紹介をしていただいた城東区社会福祉協議会『ゆうゆう』ならびに、サークルの見学を快く受け入れ、ろう者やろう者関係者との会話の機会を与えていただいた大阪市の手話サークル『ひだまり』の皆さんには大変お世話になりました。記して感謝いたします。

美を感じるとはどういうことか

1. はじめに

私たちは日々、様々な形で美を感じている。夕日を見たとき、心地よい旋律を耳にしたとき、美しい芸術作品を観たときなど、場面や対象は大きく異なるが、いずれも私達に「美しい」という感情を抱かせる。このように、美は私達にとって身近で馴染み深いものであるが、美が何であるかを明確に示すことは難しく、また私達がどのようにして美を感じるのかについてはあまり意識されていない。この研究では美を感じるとはどういうことかについて、近代美学に関する文献講読を重ねて考察していく。

2. 考察①

人が美を感じる時、その美はどこにあるのか。これは美学における重要なテーマであり、この問いに対する考えは時代とともに変化してきた。

古代から近代以前まで主流とされていたのは「美はものの中にある」という考え(美の客観主義)である。その源流には古代ギリシャの数学者、ピュタゴラスの思想がある。

ピュタゴラスは、弦の長さが1:2、2:3、1:4のときにその2つの音は美しく調和するという法則から、世界には幾何学的法則があり、それに従っているものは美しいと考えた。この考えは後にプラトンによって継承される。プラトンは主著『ティマイオス』の中でこの世界にある幾何学的法則は神によって与えられたものであると述べている。

神は宇宙を幾何学に従って創造したのであり、この世界は美しく秩序づけられている。こうしたピュタゴラスとプラトンによる思想は古代から初期近代にかけての美学の土台となった。

しかし17~18世紀にかけて起こった科学革命において、宇宙空間が無限であることや、惑星の軌道は正円ではなく楕円であることが発見されたことで、そうした「神が創造した幾何学的な世界」は否定されていく。また、それにともない、神や数など理性のみでしか捉えることのできないものよりも、経験をもとにしてものごとを考えようとする経験論が生まれる。

こうした時代背景のもと、美はものの中に存在するのではなく、感じる人の心の中に存在するという考え(美の主観主義)が生まれる。これを提唱した一人がスコットランドの哲学者デイヴィッド・ヒュームである。また、ヒュームはそうした美の主観主義を主張すると同時に美の客観主義の擁護にも回っており、自身のエッセイ『趣味の基準について』の中で、次のような見解を示している。「美とは美しいと感じるその感情であって、ものの中にある性質ではないことは確かであるものの、それでもやはりものには美しいと感じさせるに適した一定の性質がある」⁽¹⁾

後半部分の「美しいと感じさせるに適した一定の性質」は、黄金比や対称性など、多くの人がそれを美しいと感じる形態の要素を指す。

3. 考察②

人が何かを感じる時、そこには感性が働いている。’では感性のはたらきとは何か。いくつかの例を挙げて考える。

{1}柿の渋みを感じる。

{2}イヴ・クラインの青に独特なものを感じる。



(イヴ・クライン 『青のヴィーナス』)

感性のはたらきを考えるうえでまず大切なのは、それを直接的知覚と区別することである。

{1}柿の渋みを感じる。

この文を直接的知覚が捉えた単なる刺激として置き換えると、{1’}「この柿は渋い。」と表される。{1’}で柿という対象に向けられている私の注意は{1}では舌の表面に集中している。なにかを感じる時、その人の意識は自分の内側に向けられているのである。ここで示した味覚は身体的な感覚であるが、より複雑な精神的な感覚の場合はどうか。

{2}イヴ・クラインの青に独特なものを感じる。

『青のヴィーナス』を鑑賞したある人が、この作品の青に独特なものを感じたとする。

ここで感性はどのようににはたらいっているのだろうか。

その青が独特であることを味わうというのは、それが他のさまざまな青と比較して違っていることを快さとともに心の中で反芻することである。ここで「さまざまな青」が指しているのは、それまでの経験により蓄積されてきた多彩な青の記憶である。目の前の作品の青と、背景にあって意識されない記憶としての青が反響することではじめて独特さを感じるができる。

4. 考察③

人が日常的な生活の中で事物に対して取る態度は、「解明的態度」「実用的態度」「美的態度」の3つに区別できる。

例えばりんごの花について、それをただ鑑賞の対象として見るのは「美的態度」(美を感じる時にもとられている態度)、その開花状況と気温の推移の関係や、開花数と実のつき方の関係を調べるのは「解明的態度」、またそうした知識を土台にしつつ、収穫を目指して花を観察するのであれば、それは「実用的

態度」だといえる。このように、「解明的態度」「実用的態度」では目的のための手段として対象が観察されているのに対し、「美的態度」では対象それ自体が目的として鑑賞されている。

5. 結論

わたしたちが美を感じる時、そこには感性が働いている。知覚、知性をはたらくときには対象やその目的に注意を向けているのに対し、感性をはたらくときはわたしの内側で起きている反応に意識を集中させている。その反応とは何か。外からの刺激を受けると、私たちの中にある身体化された記憶の反響が起こる。その反響に耳を澄まし、それに伴う感情とともにそれらを反芻することが感じるということである。美を感じる時にもまた、目にした、あるいは耳にした夕日、絵画、音楽によりその人の中にある身体化された記憶の一部がざわめきたち、その反響を心地よさとともに反芻しているのである。

6. 参考文献

- (1) 佐々木健一『美学への招待』増補版 中公新書
- (2) 佐々木健一『日本的感性』 中公新書
- (3) 井奥陽子『近代美学入門』
- (4) 今道友信『美について』
- (5) 佐藤透『美と実在』

遠隔操作ロボットを用いたコミュニケーション

1. はじめに

世界最速で少子高齢化を突き進む我が国は、団塊世代の後期高齢者入りを背景とした医療・介護・福祉サービスの極端な需要増大に直面しているが、それを支える労働人口の減少は顕著である。それに伴い生じる様々な問題に対して、最先端の科学や技術力に着目してのアプローチを念頭に置き、本課題に取り組んだ。

高齢者コミュニケーションにおける一場面として、高齢者を対象とした遠隔操作ロボットを用いた実験がある。その実験においては、高齢者が自身の子供世代の相手と対話をする際、直接対面より遠隔操作ロボットを用いた対話を好むという結果が報告されている¹⁾。一般的には、直接対面で対話をする方が言葉のやり取りがスムーズであると考えられるが、なぜそのような結果へ至ったかを考察することとした。

高齢者が自身の子供世代の相手と対話をする際、直接対面より遠隔操作ロボットを用いた対話を好む理由として、遠隔操作ロボットによる非言語情報量の減少と高齢者の選択的注意の機能低下が関係していると考えられる。しかしながら、遠隔操作ロボットを用いた対話が全ての場面で必ずしも最適な方法ではなく、状況や場面に応じて適用性は変わってくると考察した。

2. 考察1

遠隔操作ロボットを用いたコミュニケーションが好まれる別の事例として、自閉症児と遠隔操作ロボットとのコミュニケーションが挙げられる²⁾。この事例において使用されたロボットは、高齢者に対する実験で使用されたものとは異なり、視線や情動表現などの非言語情報のやりとりだけができるような設定となっており、対話することはできない²⁾。自閉症児が遠隔操作ロボットが相手だと、上手くコミュニケーションを取れる理由として小嶋ら²⁾は、人とのコミュニケーションでは「他者の身体動作から注意や情動の状態を抽出する」<心理化フィルタ>が、自閉症児は「十分に機能せず、人間の各身体器管から発信される多元的な情報の洪水にさらされ、そこから注意や情動といったコミュニケーションに欠かせない情報を取り出すことが困難なのではないだろうか」という考えを述べている一方で、遠隔操作ロボットを用いたコミュニケーションでは「注意や情動の状態をダイレクトに伝達させる」ため、自閉症児の受け取る情報が適切に絞り込まれ、それがコミュニケーションにつながるという仮説を立てている。この仮説を高齢者の遠隔操作ロボットを用いたコミュニケーションの事例へ当てはめると、対面でのコミュニケーションにおいては相手から大量の情報を受け取っており、遠隔操作ロボットを用いることで受け取る情報量が減少することにより、コミュニケーションにおいて欠かせない必要最低限の情報を取り出しやすくなり、話しやすさが向上するのではないかと考察した。

3. 考察2

それでは、その相手から受け取る大量の情報とは何であるのかという視点から考察を行う。他者からは「骨格の状態、関節の状態、動きやスピード、顔面だけでもたくさんの表情筋（アクションユニット）の状態と動き、視線の向きや動き、声に含まれる言語情報や韻律情報といった大量の生データが流れ込んで」くる³⁾。他者からのこれらの情報の中には、多数の非言語情報が含まれているため、相手から受け取る大量の情報の一つが非言語情報であると考えられる。

また、鈴木⁴⁾によると言語以外に情報を伝達する手段として、表情、視線、身振りなどの様々な非言語行動が考えられており、私たちは、「言語や非言語行動の情報から、相手の感情状態や

意図などを知るために、これらの情報を手がかりとして総合的に判断を下している」と述べている。以上のことから、相手から受け取る情報の一つが非言語情報であると考察した。

さらに、石原⁵⁾によると「不必要な情報は排除し、ある必要な情報に注意を向ける機能」である選択的注意の機能は加齢の影響により低下するとされている。遠隔操作ロボットがコミュニケーションにおいて必要な情報を伝えつつも伝える情報量を減少させるため、必要な情報を抽出する作業が高齢者にとって容易なものとなるのではないかと考察した。

4. 考察3

しかしながら、遠隔操作ロボットを用いた対話が、いかなる状況や場面においても好まれるとは限らない。多様なコミュニケーション場面の中で、コミュニケーションの相手として、人とロボットのどちらが選好されるのかを比べた研究報告⁶⁾がある。結果として、「単純なコミュニケーション場面ほど、ロボットを選択する傾向がある」のに対し、「相手の状態を把握し、さらに心理的状态を推測し配慮しながら行うような相談といったコミュニケーション場面」においては、ロボットよりも人が多く選好された⁶⁾。その理由としては、相手の心理的状态に気づくためには非言語情報が大きな手がかりとなるためであると考えられる。この研究におけるロボットは遠隔操作型ではないものの、遠隔操作ロボットを用いるよりも人との対面の方が多くの非言語情報が相手に伝わるため、同様のコミュニケーション場面において、遠隔操作ロボットよりも人が選好されると推測される。

また、石田⁷⁾によると対面的・直接的なコミュニケーションでは、「伝達情報や伝達のしかたに対する好悪、快不快などの感情が伝えられるとともに、そうして伝えられた情動の認知は、自らが伝えた内容や伝え方が相手に何をもちたのかのフィードバック情報」となり、これによって私たちは「自分のコミュニケーションのあり方、自分自身や自らの意見がどのように他者から認知されているのかについて理解する」とされている。更には、「間接的なコミュニケーションでは、こうした情動の伝達や伝達にもなうフィードバック情報の授受は不可能であるか、できたとしても著しく限定されることになる」とも言及されている。このことから、間接的なコミュニケーションである、遠隔操作ロボットを用いた対話では、フィードバック情報のやり取りが、直接対面に比べて困難であると推測できる。そのため、自分の意見に対して他者がどのように捉えているのかを知る手がかりを得ようとする時には、直接対面のほうが選好されると考えられる。

以上のことから、いかなる状況や場面においても遠隔操作ロボットを用いたコミュニケーションが選好されるわけではないと考察した。

5. 結論

これまでの考察の結果より、高齢者にとって、対面でなく遠隔操作ロボットを用いた対話が好まれる理由として、遠隔操作ロボットを相手とすることにより、相手から受け取る非言語情報量が減少し、選択的注意の機能が低下している高齢者は情報を処理しやすくなるからだと考えられる。ただし、遠隔操作ロボットを用いた対話が、いかなる状況や場面においても好まれるとは限らないと考えられる。

6. 参考文献

- 1) 石黒浩.ロボットと人間 人とは何か.2021,p180 - 184
- 2) 小嶋秀樹.仲川こころ.安田有里子.ロボットに媒介されたコミュニケーションによる自閉症療育.情報処理.2008,Vol.49 No.1,p36 - 42

- 3) ロボットの目だから見える、自閉症児の社会性と内面の発達.第108回オンラインシンポジウム・前半 <https://lot.or.jp>
- 4) 鈴木晶夫.非言語行動を手がかりとした人間関係研究.心身健康科学.2014,10巻1号,p5 - 9
- 5) 石原治.高齢者の認知機能とバイオメカニズム.バイオメカニズム学会誌.2003,Vol.27 No.1, p6 - 9
- 6) 鈴木公啓.山田幸恵.野村竜也.神田崇行.コミュニケーション相手としてロボットは選好されるのか.知識と情報.2019,Vol.31 No.5,p789 - 796
- 7) 石田裕久.対面的コミュニケーション喪失の時代と協同的関わり.協同と教育.2008,第4号, p38 - 51

啓蒙専制君主フリードリヒ大王

1. 問題意識

18世紀は啓蒙の世紀と呼ばれるほどヨーロッパで啓蒙思想が影響力を持った時代であった。この啓蒙思想は主に西欧(特にフランス)で旧来の伝統や迷信、封建的思想を批判し人間性の解放を目指すものであり、理性を使って合理的に判断していくという側面が非常に強かったため、権力が不条理で恣意的に行使されることを厳しく批判し、結果的に絶対王政を倒す市民革命につながった。対照的に、東欧では国王が啓蒙思想の影響により、自らを律することでむしろ権力を支え、導こうとした。その結果、啓蒙専制君主が誕生し、彼らは啓蒙絶対主義という体制を取った。啓蒙絶対主義とは物事を合理的に考え、改革していきながらも絶対主義の強化を図ろうとするものである。そこで、私は最も有名な啓蒙専制君主の一人であるプロイセンの国王フリードリヒ2世の啓蒙絶対主義が一体どのようなものであったかに興味を持った。

2. 問い

フリードリヒ大王が目指した啓蒙絶対主義とは一体どのようなものだったのだろうか。

3. 考察

ここではまず、フリードリヒ大王が国王に即位するまでのプロイセンの歴史を少し整理し、フリードリヒ大王の著書である「反マキャヴェリ論」などを用いながら彼の政治思想を考え、彼の行ったオーストリア継承戦争、七年戦争を挙げながら対外政策を、彼の行った国内の諸々の改革を挙げながら国内政策を見ていく。これらのことから最後に彼の目指した啓蒙専制主義とは何だったのかを考察する。

まず、ドイツでは17世紀の前半に30年戦争により土地が荒廃してしまった。しかし、当時のブランデンブルク選帝侯であった大選帝侯(位:1640~1688)が後のプロイセンの基礎を築き、フリードリヒ1世(位:1688~1713)がプロイセン国王として戴冠された。フリードリヒ2世の父であるフリードリヒ・ヴィルヘルム1世(位:1713~1740)は軍制を強化するとともに軍隊を愛し、兵隊王と呼ばれていた。そんな父とは対照的にフリードリヒ2世(彼の功績の偉大さからフリードリヒ大王とも呼ばれているため、後大王と呼ぶ)は幼少期から音楽、特にフルートの演奏や読書をこよなく愛する文学少年であった。成長すると、政治や哲学にも興味を持ち始め、自らの政治思想をまとめた「反マキャヴェリ論」を著した。しかし、父はこれをよく思わず軍人教育をし、時には暴力までふるった。そんな状況に王太子であった大王は嫌気が差し、親友とともに国外に逃亡しようとした。しかし、逃亡は失敗に終わり、彼は大切な親友を処刑という形で失った。そんな波乱万丈な王太子時代を過ごしていた大王だが、最終的には父と仲直りをし、父は病が重くなって亡くなる覚悟をした際「あとは息子に継いでもらうから思い残すことはもうない。彼はよく統治する能力を全て備えている。しかも分別もある。全てうまくいこう。」と言ったと言われている。

そして、1740年、フリードリヒ・ヴィルヘルム1世の死去に際してフリードリヒ2世がプロイセン国王に即位した。彼は即位の翌日、「国民と我らの利益が相反するときは国民の利益を優先する」と宣言した。ここで、彼が国王になって行っていく政策を見る前に彼が王太子の頃に著した「反マキャヴェリ論」について詳しく見ていこう。彼はこの本の中で君主の統治原理を人民との社会契約にあると説いた。言い換えると、君主が権力を持って統治することができるのは人民の幸福を第一に考えて政治をすることを人民との契約の中での義務として捉えているということである。そのため、君主はその期待に応えるために誠実に統治しなければならず、支配権は正義の実現、安全保障、共通利益の追求によって制約されると彼は考えた。彼の父の時代は国王の主権の原理を王権神授説(君主の支配権は神から与えられた神聖不可侵のものである)ではないものの、神的秩序の中に置いていたことを考えると非常に合理的な考え方であった。ただ、ここで勘違いしてはいけないのは君主は人民の幸福を最も重視して統治しなければならない一方、人民に主権が与えられた訳では無いということだ。当時のフランスでは彼と同じように社会契約を唱えていたルソー(大王とルソーの社会契約の考え方が全く同じであったとは言えないが)は主権在民を唱え

ていたが大王はそうではなかったということだ。すなわち、彼の目指した国家は啓蒙君主による親政を行うことを理想とした権力国家としての性格があるのだ。また、大王は人民の幸福を考慮すると、彼らの命が失われる可能性のある「戦争」というものを激しく批判した。このように大王が王太子時代に著した「反マキャヴェリ論」には彼が啓蒙思想などの哲学に大きな影響を受けていることが表れており、ヨーロッパ中の多くの人々が彼が即位し、哲人皇帝として人民のことを深く考えた統治をしてくれることを期待した。そんな中、彼は王に即位すると1年も立たないうちにハプスブルク家の王位継承を巡ってシュレジェンに侵攻し、オーストリア継承戦争が始まった。これはヨーロッパに大きな衝撃を与えたであろう。なにせ、この前まで文学や音楽を愛する優しい少年であった大王が急に隣国に侵攻し始めたのだから。ただ、彼は「反マキャヴェリ論」の26章において、国家の平和と福祉こそが賢明な国家にとって中心となるべきものであり、国家のあらゆる外交交渉の目的であらねばならないとして平和を主張した一方で良き戦争は平和を保証する。戦争はそのための補助手段であるにすぎず、やむを得ない場合にのみ行うべきであると述べ、そのような場合として彼は防衛戦争(敵対行為がなされた時に暴力で暴力に立ち向かう行為であり、軍事力が国家の安寧を保証する)、権利の維持のための戦争(国王たちの上には法定が存在しないため戦闘においてその権利が決定され、その理由の妥当性が判断されるべきであるというもの。簡潔に言うと、君主は武器を手に訴訟するという。具体的には継承権をめぐる戦争など)、予防戦争(非常に大きな勢力が世界を飲み込みそうであるとき、何もしていなければ人々はいずれその勢力の隷属状態になってしまうような場合に先制攻撃を仕掛けること)、同盟の履行(同盟は敵対者の武力行使に対する抑止力になる)の4つのパターンを挙げている。この4つというのはまとめると、不当な戦争を行う悪しき君主から人々を守るために厳密な検討の上に企てられた正義と公平な戦争は正当であり、このようなときには君主はむしろ積極的に戦わねばならないと考えた。そのため、彼はオーストリア継承戦争は正当であると考へた。しかし、この戦争の結果、大王はシュレジェンを獲得した代償として国際的な信頼を大きく失い、味方であったフランスにも不穏な印象を与えてしまった。大王は正当な戦争の1つに同盟の履行というものを挙げており、そこでは非常事態を除いて信義を守れと主張しており、国家の存亡が問題となるような場合は人民の幸福を追求するという臣民との社会契約という観点から破約を許している。ただ、彼はその上で破約を一度行えばもはや世間の信頼を得られなくなると述べており、それは結果的には不利益となるから殆どの場合において破約をするべきではないと考えた。そして、破約を迫られるような状況を作らないことが重要であり、条約や同盟を締結する際には十分な配慮をすべきだと考へた。このような社会契約と親政、正当な戦争、破約の相互的な関係は大王が統治の経験を積んでいくことで理論と現実との乖離に直面していく過程で彼の王太子時代からの人民との社会契約により君主は人民のことを第一に考へた政治を行っていかねばならないという理論は棄却されるどころかむしろ認識が深まっていった。

アーヘンの和約(オーストリア継承戦争の講和条約)で終戦し、平和が訪れたかと思つたのも束の間、肥沃なシュレジェンを奪われたオーストリアはロシアやフランスと手を組んで同盟を組み、対プロイセンの包囲網を形成しようとしていた。新興国であったプロイセンは国力が回復するまでに平和が必要であったが、オーストリアがプロイセンを恨んでいるのを察知し、大王は先に戦争を仕掛けた(7年戦争)。ここで、彼の予想は大きく外れることになる。それは今までお互いに敵同士だったオーストリアとフランスが同盟を結んだのだ(外交革命)。これまで数百年間もの間ずっと死力を尽くして争っていたハプスブルク家とブルボン家がタッグを組んだのだ。それはすなわち、当時はまだ成り上がりの国だったプロイセンがなんとフランス、オーストリア、ロシアという3つの強国と同時に戦争をすることになったということだ。クーネルスドルフの戦いでは大王は上着を敵に撃ち抜かれ、馬も2頭失ったが、最終的には大王の軍事的な才能やロシアでエリザヴェータ帝が死去し、ピョートル3世という大王のことを崇拜していた王が即位したためにロシアが戦線から離脱しフベルトゥスブルク条約でシュレジェンはプロイセンが死守しほとんど領土変更なしという形で終結した。大王が行った主な対外政策はこの2つが大きい。1772年には彼はオーストリアのヨーゼフ2世、ロシアのエカチェリーナ2世とともに第1回ポーランド分割を行っている。大王はこの分割について人命を尊重し戦争を回避しながら勢力均衡の維持に成功したとし、剣ではなくペンによって平和的に

領土を拡大した事例としてこれを啓蒙の輝かしい成果とした。また、プロイセンはここでようやく長年の夢であったプロイセンの地理的国土を一つにつなげることに成功した。

では次に、大王が行った内政政策について見ていく。彼は即位してから7年戦争が終わるまで多くの時間を戦争に費やし、7年戦争では非常に劣勢になる場面も多くあったため、国土は荒廃してしまった。そのため、大王は重商主義、すなわち保護貿易を取った。荒廃した領土を開拓するにあたって、外国から安価な農作物が入ってくると自国の農業に打撃を与えてしまうからだ。また、大王は父のフリードリヒ・ヴィルヘルム1世が軍事・外交においては兵隊王と呼ばれるほど軍隊を愛していたにも関わらず、対外的には自ら戦争を行うことはなく弱腰と言われていたのとは対照的に、2度のヨーロッパを巻き込む戦争を起こした一方で、内政面では父を模範とした。何がこの国に益し、何がこの国に害をもたらすのか経験によって知らぬうちは政治のシステムを変動させないとして、全てを自分の目で確かめ、自分の考えで判断し変革や改革は理性が求めるものだけを導入するべきだと考えた。そのため、大王はシュレジェンに一年のうちの数週間は自ら行って調査を行った。具体的には彼はじゃがいもの栽培を奨励したり、羊毛や絹などの織物、鉱山開発を保護した。一方で彼は啓蒙主義者としての立場から人間はみな平等であることを唱えたにも関わらず、身分制の廃止を行わなかった。これは貴族が国家と密接な関係にあったために貴族の特権の維持が国家の存亡に大きく関わる可能性があったからだ。これはユンカーの育成を促した。ただ、だからといって当時のロシアのように農民が売買されたり、農民から土地を不当に奪うことは禁止されていた。さらに、大王は宗教について非常に寛容でプロテスタントの難民もイエズス会士も受け入れた。必要があるなら、モスクすらも作ってよいと言ったと言われているほどだ。ただ、この政策の裏には人口を増強して国力を上げようという非常に合理的な考えがあった。そして、この合理的な政策を行おうという考えから彼は拷問の廃止や信教の自由、出版物の検閲の一部廃止(ヴォルテールがベルリンを自由な学芸都市にするため、検閲の廃止を主張したが実際は非政治的などころだけであった)、形骸化していたアカデミーの復興も行った。

このように大王はプロイセンの復興に尽力を尽くしていた。当時の大王は朝4時(冬は5時)に起き、昼の12時まで執務をし、昼食を食べるとそこから22時まで再び執務をし、そこから24、25時までには読書を行っていたという。そんな国家の復興に一生懸命働いていた大王だったが、彼はどれだけ自分が頑張っても、命令しても、人民がそれに従うような支配服従関係では国家の復興は難しいと考えた。そのため彼は人民を能動的にし、国家の主體的な担い手にしようと試みた。ここで言う国家の主體的な担い手というのは政治参加を積極的にするというのではなく、各人の社会的地位に応じた参加をするものであり、それを形成するためには祖国愛が必要であると説いた。では祖国愛とは何なのか。それは決して民族主義(19世紀のナショナリズム)のようなものではない。一言でいうと、それは情念を理性の力で人と人とを結ぶ社会的な絆である祖国の利益に方向づけることである。情念とは人からは決して切り離すことのできないものである一方で、放置することで盲目的な私益の追求をしてしまい、結局は自分の身を滅ぼしてしまうものである。そのためこの情念を理性によって抑制、操作をすることで私益ではなく公益の追求をしようというものである。また、国家というものは一種の運命共同体のようなものであり、大王が考える社会契約における人民の義務とは、共同体の一般利益のために等しく熱心に協働することを約束し、同じ政府の全ての市人民の暗黙の了解であり、各人が財産や身分や才能に応じて共通の祖国の利益に関心を抱き、それに貢献することであると説いた。つまり、身分が高い者はより多く国家に貢献するべきだと主張しているのだ。

次に彼の司法改革について見ていこう。ではまず、プロイセンの司法界に大きな影響を与えた水車小屋事件について説明する。ノイマルクの水車小屋番のアルノルトに対し、彼の水車小屋を競売に出すという判決が下った。しかし、使用料を払えなくなったのは上流にできた養魚池のために水が乏しくなったせいだとして裁判を起こした。上級審が一審の判決を支持したため、アルノルトは国王に請願書を出したという事件だ。この事件において大王は人々は身分に関係なく法の前に平等であると主張し、自らを正義と平等の象徴とした。この話題がベルリン市民の中で広まった際、首都の新聞に王は個人的な弁明を寄

贈し、「農民どころか乞食でも人間として法の前では王と同等である」と宣言した。このような事件が起こっていた中、大王は法の提示の必要性を訴え、後に一般ラント法が成立する(これが成立するのは大王が死んだ後である)。この一般ラント法は原則として何人をも侵害せず、公共の利益を守ることを原則とし身分制社会を前提としながら法的安定性と具体的妥当性の両立を試みた。そのため、後世からは妥協の法典などとも呼ばれた。また、大王は民衆でも法典を理解できるようにするために簡潔な法典を理想とした(ただし、実際は条文が一万条以上もあり一般の民衆が使うのには難しかった)。そして、詳しい部分は裁判官などの法曹が良心に従って公平に誠実に判断するべきであると考えた。ただ、大王は自らが求める能動的な市民(この論文での「市民」とは祖国愛に基づいて国家の主體的な担い手のこと)を育成し法律が分かるような民衆を育成するためには教育改革をするしかないと考えた。

では大王は一体どのような教育改革を行っていったのであろうか。それを簡潔に表す言葉がある。それは「学校は国家の施設である」というものだ。彼は教育というのは国家の真の福祉のために国民をできる限り啓蒙し、国家から委ねられた種々の仕事を巧みに処理する才能を持つ多くの臣民を祖国に供給するためのものであると考えた。その目的を遂行するために大王は全階層の民衆に対し、祖国の国家観念を広く知らせ市民の義務を教えることによって、愛国心(祖国愛)を高め、そして、政治教育をし、どんな身分の人にも法を知らせなければならないと考えた。また、貴族には国王とともに国家のための義務を悦んで果たすという確固たる動機を備えるための教育を実施しようとした。さらに、下級身分の人々には簡素で平和的な日常生活を良しとする教育を実施しようとした。このように、教育は身分制国家だったためにそれぞれの必要に応じて制約されるという形になった。

では次に、大王が目指した理想の君主像はどのようなものであったのだろうか。それは神からの特別な恩寵を受けた特権的存在ではなく人民の信託を受け、その責任の重大さ故に勤勉で活動的で理性的で精神的に自ら行動(軍隊を指揮したり、自ら交渉すること)し、あらゆる国家利害の統合点となり得る君主である。大王は対外政策を遂行するために他のことを怠ってはいけないと考えていた。これは財政や軍事、内政などの各部門というのは緊密に結びついていて、それらの部門に差が生じると目的を達成することは難しく、ひどい場合には小国であれば滅びてしまうと考えた。そのため、君主はその差が生じないようにし、生じたとしてもすぐに修正しなければならず、それを彼は国家利害の統合点と表現したのだ。また、大王は君主は祖国を構成する全人民の先頭に立って最も啓蒙されたものとして模範を示し、身分や才能において最も抜きん出たものとして一番献身的に国家に奉仕すべきであると考えた。真の優れた王は公共の福祉のために心から自身を捧げなければならないとし、それがすなわち祖国愛であると主張したのだ。この考えから彼の代名詞とも言えるこの「君主は国家第一の下僕である」という言葉が生まれたのだ。さらに、同時代の偉大な哲学者であるカントは大王に関して「宗教について何も指し図せず、完全に自由することを義務と考えるという考えにふさわしく、自らが啓蒙されたものであるフリードリヒは初めて人類を未成年の状態から少なくとも政府の側から脱却させ、各人の良心に関する全てのものにおいて自身の理性を自由に用いさせる者として同時代並びに後世から感謝の念を持って称賛に値する者である」と述べ、大王の統治に関しては「好きなだけ好きなことについて議論せよ、ただし服従せよ!!」という言葉に、国家の利益を害さない範囲においては人民は何をしても良いという大王の政治思想が端的に表されている。

では最後に、大王が目指した啓蒙絶対主義、すなわち物事を合理的に考え、改革していきながらも絶対主義の強化を図ろうとする体制とは一体どのようなものだったのだろうか。それはある種の寡頭政治のようなものである。もちろん、政治というのは国王ただ一人だけで完結できるものではない。そのため、国王は少数の官僚(官僚になるために教育された貴族が国家の福祉の増進に務める)とともに統治を行う。そうすると、権力が王に集中し、官僚の派閥間の権力争いなどによる摩擦が起きず、迅速に決断、行動をすることができるのだ。大王はこの点においてこの体制が共和制よりも優れていると主張している。共和制では官僚が自らの利己的な利益のために政治を動かそうとするため、権力争いが起き、決断や行動も非常に遅くなる傾向があると考えた。また、啓蒙絶対主義を当時のフランスの君主制とも比較しており、フラン

スでは権力が貴族や僧侶(いわゆる第一身分と第二身分)にあり、彼らは自らの利益に専念してしまっていると主張した。

ただし、この啓蒙絶対主義には大きな欠点があると私は考える。大王は公権、すなわち政府の存在理由は国家における法の支配、全体の福祉の最大の増進を図るという務めを果たすためだけにあるとし、それは具体的には法を守り、司法を行い、良俗を維持し、外に対して国家を防衛するということであると考えた。そして、そのような個々人が自らの幸福を求める努力を確固たる法的秩序により保証される状況において愛国心、すなわち祖国愛が形成され始めると考えた。しかし、このような理論は君主が自らを「国家第一の下僕」と認めなければ全て成立しないのではないかと私は考える。大王はそうならないために王太子への教育には力を入れていた。しかし、彼の次の王は大王の意思を継いだ統治はせず、大王の死からたったの2年後には宗教勅令(不寛容勅令)によって大王の偉大な功績の一つは水の泡となってしまった。あの哲人皇帝として有名なローマのマルクス・アントニウス・アウレリウスでさえ彼の次の皇帝からはあまり優秀ではなく、程なくしてローマは軍人皇帝時代、すなわち3世紀の危機を迎えていくのである。そうすると、ここで一つ疑問が生まれる。それはもし君主が暴君だった場合に、人民は君主との社会契約を破棄すること、すなわち抵抗権があるのかということだ。大王はこの問題について理論上は抵抗権を肯定している(彼は抵抗権という言葉は使っていないが)。ただし、それは民衆が理性によって情念を支配し冷静な判断をできるならという条件つきである。そしてそのような状況はほとんど不可能であると大王は考えている。また、もしそのような状況であって、新たに優秀な君主が現れたとしてもそのような君主制というのはどうしても世襲君主制に比べると王権が弱くなってしまふ。その結果、そのような国家は周りの大国からの圧力に負けてしまうというのだ。その最たる例が選挙王制のポーランド(1572~1795)であろう。ヤゲロー朝が滅亡してから選挙によって国王を貴族の中から選んでいたポーランドは最終的にロシア、オーストリア、プロイセンという3つの大国から為すすべもなく3度の分割によって地球上から姿を消した。大王に言わせれば、いくら内政が素晴らしくても、外からの圧力に負けてしまえば人民の幸福を達成できていないのだから。

4. 結論

ここでは、結論としてフリードリヒ大王が行い、目指した啓蒙絶対主義とはどのようなものであったのかを端的にまとめる。フリードリヒ2世は専制君主でありながらも啓蒙主義哲学者であるという2面性を持っていたがために、国民との絶対服従関係を社会契約として捉え、この契約によって王の権力を正当化される一方で、人民の福祉を一番に考えた政治をする義務があると考えた。彼の行った上からの政策は非常に啓蒙(これまでの伝統などの非理性的なものとの闘争)的で合理的なものが多い。しかし、いくつかの面では啓蒙的とは言いがたい政策を行っていたように思える。だが、私はそれは大王が自らの権力の維持のためでは決してなく、当時のプロイセンを鑑みて最も人民の幸福につながると考えた上で最善の策として行ったものだったと考える。

5. 参考文献

規律と啓蒙 屋敷二郎 ミネルヴァ書房
フリードリヒ大王:啓蒙専制君主 飯塚信雄 中公新書
フリードリヒ大王 屋敷二郎 山川出版社
フリードリヒ大王とドイツ啓蒙主義 ディルタイ 創文社

音楽CDはなぜ無くならないのか

1. はじめに

近年、音楽ストリーミングサービスの普及によって、音楽CDの売上は年々低下している。

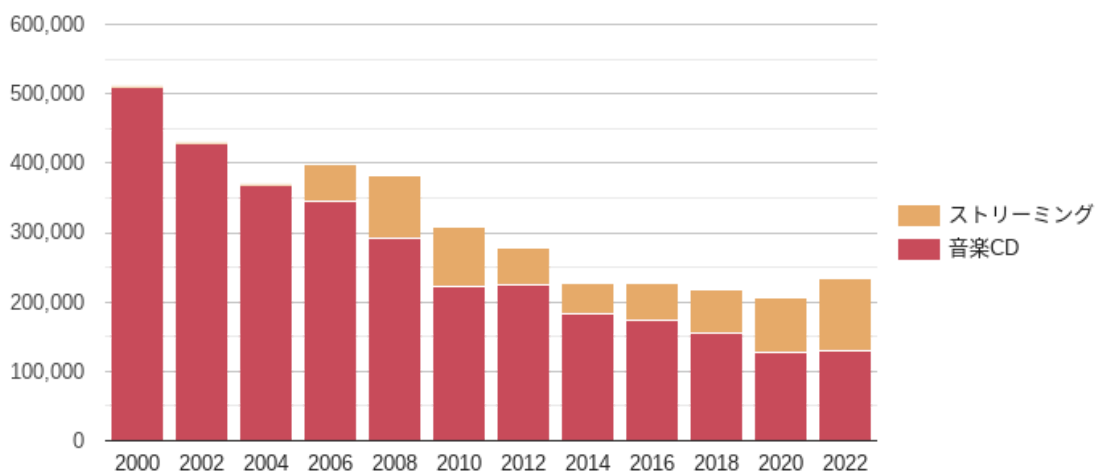
また、新型コロナウイルスの蔓延によって何事もデジタル化が進められた。このような社会における音楽での、「もの」というアナログの意義に興味を持った。

現在のアナログ逆風の音楽業界の中でも音楽の売上の半分近くを音楽CDが占めている。

なぜ音楽CDは無くならないのだろうか。

音楽CDと配信の金額推移¹

(百万円)



また、消費者の購買行動は、驚き、嬉しさ、楽しさ、満足度などの快樂を得たいという消費者心理、欲求から発生している。²

このことから、音楽CDは無くならないのかという問いについて、本研究では幸福感という心理的側面から考察した。

2. 考察

音楽CDが選ばれる理由として下記の3つが挙げられる。³

- ・音質の良さ
- ・購入特典
- ・コレクションとして集めている

しかし音質の良さに関しては現在の音楽ストリーミングサービスのほうが音楽CDよりも優れていることがほとんどである。⁴

よってCDが無くならない理由として、購入特典とコレクションが大きく関わっていると考えた。

- ・購入特典

日本の音楽CDの購入特典には握手会やライブへの申し込み券や、ライブ映像のDVDが付けられていることが多い。これらの購入特典は応援する幸福感を生む。

応援するという行為自体は、対象の魅力を上げ、幸福感を得る効果がある。この効果は、対象への好意や応援している自覚の有無に関わらず起こるものである。

特にライブのような一体感を得られるものや、対象が身近に感じられると、より大きな幸福感が生まれやすい。そして、また観たいという感情を生む。⁵

すなわち、応援する→応援した対象の魅力が上がる→また観たい→応援する→という幸福のループを生むのである。

日本の音楽CDの購入特典は、握手会やライブのようにアーティストを身近に感じられ、一体感のある経験により応援する幸福感が得られるものであると言える。

・コレクションとして集めている

コレクションとしてもものを手に入れるときの「もの」を購入する行動自体も幸福感を感じられる。

店舗で「もの」を買うという買物経験が快楽的な買い物の価値を高め、ユーザーの幸福感を向上させるのである。

購入したブランドの「もの」によって知覚される幸福感が持続すれば、ユーザーが次の購入においても同じブランドを選択する可能性が高まる。ブランド力が強いほど「もの」を購入する幸福感は高くなる。⁶

これらは、「もの」を実際に手に入れるという行動に幸福感を感じているといえる。

つまり、音楽CDをコレクションするために「もの」を購入することでユーザーは幸福感を感じられるのである。

3. CD不況を生き残っているタワーレコード

また、音楽CDが無くならない理由を考える上でCDショップに注目した。

タワーレコードは日本最大のCDショップであり、他の大手CDショップが廃店店舗を出し吸収される中、CD不況を生き残っている。

2000年から2020年の間で全国のCDショップ店舗数は3864店舗から1727店舗まで減っているが、タワーレコードは48店舗から82店舗と店舗数を増やしている。

タワーレコードがCD不況でも実店舗を無くさずに生き残れたのは、アーティストを応援するユーザーを応援という仕組みを作り上げたからである。

タワーレコードのアーティストを応援したくなる仕組みは以下の3つである。⁷

- ・インスタライブの開催
- ・推し活グッズの販売
- ・アーティストを起用した広告展開

- ・インスタライブの開催

アーティストがより身近になり、ライブという一体感の感じられるもので応援する幸福感を得ることができる。

・推し活グッズの販売

身につけられるグッズでアーティストを身近に感じ、応援する幸福感と「もの」を購入する幸福感を得ることができる。

・アーティストを起用した広告展開

アーティストを身近に感じることができ、NO MUSIC,NO LIFEというワードとともにタワーレコードをブランド化した

タワーレコードのアーティストを応援したくなる仕組みは全て、音楽CDで感じられる2つの幸福感に当てはまることが分かる。

4. 結論

アナログ逆風の音楽業界の中でも音楽CDが無くならない理由は、デジタルの音楽ストリーミングサービスでは得ることのできない、応援する幸福感と「もの」を購入する幸福感の、2つの幸福感を得られるからであると考えた。

実際に、アーティストを応援するユーザーを応援という幸福感を感じられる仕組みを作り上げたタワーレコードはCD不況を生き残っている。

少子高齢化により音楽CDを購入する世代の人数自体が少なくなっていることもあり、この先も音楽CDの売上は低下すると予想されている。

しかし、アナログであることの価値は失われないので、音楽CDはこれからも生き残っていくと考える。

また本研究では、物を購入したのちにコレクションとして飾っておいたり並べたりする際の心理的幸福感は研究することができなかつたため、今後の課題としたい。

5. 参考文献

- 1 一般社団法人日本レコード協会.日本のレコード産業2023
- 2 嵯峨千鶴(2016).実店舗とインターネットショップにおける快楽的買物動機の比較.筑波大学 図書館情報メディア研究科
- 3 一般社団法人日本レコード協会.2023年度音楽メディアユーザー実態調査報告書
- 4 「音質」で選ぶ、音楽配信サブスク徹底比較
<https://applio.com/music-subscription-service-choose-by-sound-quality>
- 5 久保南海子(2022).「推し」の科学—プロジェクト・サイエンスとは何か—.集英社新書
- 6 熊谷健・長沢伸也.買物経験、ブランドのラグジュアリー性と幸福感の関係—リアル店舗と デジタル店舗における買物経験の考察—
- 7 櫻井雅英(2022).TOWER RECORDSのキセキ NO MUSIC,NO LIFE.スタートナウ合同会社